UNIVERSITY ACCREDITED 2013.4-2020.3

For all the students
～すべての学生生徒のために～

FIT Fukuoka Institute of Technology 福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境科学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科（文系）

大学院

工学研究科
社会環境学研究科（文系）

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科

お問い合わせ先
〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30-1
TEL 092-606-0619
福岡工業大学 IRプロジェクト

平成24年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

For all the students 50th Anniversary FIT Fukuoka Institute of Technology 福岡工業大学

九州No.1の教育拠点を目指して

本学園の運営につきましては、日頃から格別のご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

今日、少子高齢化や若年者雇用環境の悪化など、学校を取り巻く環境はますます厳しいものとなり、多くの私学が入学志願者や入学者の確保に苦慮し、種々の対策を講じてはいるものの、目立たしい効果は容易にはあげられず、財務状況は悪化傾向にあると言われています。このような厳しい状況にあっても、私たち教育機関に対しては、その使命の重要性から「これからの『予測困難な時代』において『我が国の未来形成に貢献し、社会をリード』する」ことの大きな期待が寄せられているところです。

本学園では、「経営環境が急激に変化し、一方で学園への期待は急速に高まり、その機能・役割には大きな質的向上が求められてくる」との予測のもとに、①教育力発揮、②研究高度化、③就職力強化、④募集力強化、⑤経営・財務力強化の5つの総合的目標を掲げ、関係の諸施策を計画・実行してまいりました。

第5次マスタープラン（中期経営計画）の施行期間（平成22～24年度）において、①教育力発揮については、様々な教育改革の取組が「計画性が高く、その成果見通しが明らかである」等の評価を受け、国の支援事業に多く選定・採択されています。②研究高度化については、日本学術振興会科学研究費助成事業に91件の研究事業が採択され、平成24年度には過年度で最大の採択件数となりました。③就職力強化については、近年は最も就職環境が悪化した時期でしたが、その影響を極めて軽微にとどめ、当年度は「大学・短大全学科で就職内定率95%以上」を達成したところです。

また、このような取組成果等について、外部からもご評価をいただき、大学、短大及び附属高校の3設置校全てが入学志願者を拡大させ、安定的に入学者を確保し、④募集力強化の進展が確認されるところです。もとより、様々な取組が功を奏することによって、⑤経営・財務力は増強されているものと判断しています。このように、第6次マスタープラン（H25～29）の策定にあたり、前次計画の評価をまとめたところであります。

しかし、私たちはこの現状に満足することなく、いっそうの改革・改善を推し進め、社会の変革に適応力の高い、強い人材の育成によって、地域社会さらには国際社会に貢献し得る「九州No.1の教育拠点」を目指してまいります。

おって、この教育・研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、そして学校運営にご支援をいただく関係の皆様に、本学園を「将来を切り開くステージ」として、いっそう積極的にご活用いただくことを願って作成しました。より具体的に教育・研究・経営・財務の活動状況についてお知らせし、ご理解をいただくことは、その一助になるものと存じます。また、皆様のご要望やご評価は、私どもが諸活動を磨き高めるために欠くことのできない貴重なご意見でもあります。このような趣旨のもとに、本報告書を通じて、関係の皆様と本学園双方向のやりとりが進展し、相互の成長・発展に繋がることを切に願います。

平成25年6月1日

福岡工業大学／福岡工業大学短期大学部

学　長　下村 輝夫

INDEX

01　学長メッセージ

03　学校法人の概要
05　キャンパス概要

07　平成24年度ハイライト

17　研究活動

大学・大学院の取組
19　キャリア教育の充実
21　就職支援の充実
23　FDの推進
24　初年次教育
25　学士課程教育の充実
27　大学間連携を活用した教育内容の充実
29　グローバル化に対応した教育内容の充実
31　資格取得の積極的支援
32　課外教育による創造力の育成
33　組織的な学生支援体制
34　クラブ・サークル活性化支援

短期大学部の取組
35　進路保証体制の確立
37　丁寧な教育システムと学生支援体制の充実

39　地域貢献
41　施設・設備
43　経営・財務

45　データ集

学校法人の概要

中期経営計画（マスタープラン）の理念と目標

経営理念　*For all the students* ～すべての学生生徒のために

経営目標　情報・環境・モノづくり領域で教育研究力を発揮し、広く社会に貢献する

九州No.1の教育拠点

経営戦略

1 募集力	2 教育力	3 研究力	4 就職力	5 経営力
学園の“ima(今)”を伝える広報・募集活動によって、志願者の増加と入学者の安定的確保を図る。	丁寧な教育とその成果に対する質保証を徹底し、教育付加価値を向上させる。	情報・環境・モノづくりを中心とする領域で特色ある研究を展開し、学園のステイタスアップを図る。	キャリア教育と就職支援を充実し、学生生徒の満足度を向上させる。	財政基盤の安定化と組織の活性化によって、計画実現を図る。

沿革

昭和29年	福岡高等無線電信学校創設
昭和33年	学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校開設
昭和35年	福岡電子工業短期大学開設
昭和38年	福岡電波学園電子工業大学開設、同工学部開設
昭和41年	大学の名称を福岡工業大学に、短期大学の名称を福岡工業短期大学に変更
昭和48年	法人の名称を学校法人福岡工業大学に変更
昭和49年	高校の名称を福岡工業大学付属高等学校に変更
平成 5年	大学院工学研究科（修士課程）開設
平成 9年	大学に情報工学部開設
平成11年	大学院工学研究科（博士後期課程）開設
平成13年	大学に社会環境学部開設 高校の名称を「福岡工業大学附属城東高等学校」に変更
平成14年	短期大学の名称を「福岡工業大学短期大学部」に変更
平成19年	大学院社会環境学研究科（修士課程）開設

設置校

福岡工業大学

工学部	情報工学部	社会環境学部	大学院
電子情報工学科	情報工学科	社会環境学科	工学研究科
生命環境科学科	情報通信工学科		社会環境学研究科
知能機械工学科	情報システム工学科		
電気工学科	システムマネジメント学科		

福岡工業大学短期大学部

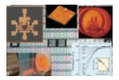
情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科	工業科
Ⅰ類	電気科
Ⅱ類	電子情報科
Ⅲ類	

設置学科概要

工学部　収容定員：1360名

学科	概要	
電子情報工学科	電子技術及び情報技術とそれらを組み合わせた電子情報技術を主たる学習領域とし、ハードウェアとソフトウェアを総合的に理解し、現代エレクトロニクスの発展に貢献する人材を育成しています。	
生命環境科学科	環境 / エネルギー、物質化学、生命化学、食品化学の4つの応用化学分野を主たる学習領域とし、化学の知識と技術を基盤に「環境の時代」に変化する社会の様々な課題解決に貢献できる人材を育成しています。	
知能機械工学科	機械4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）を土台とした機械設計学、生産工学、計測制御工学を主たる学習領域とし、高度な技術を持って、メカトロニクス機器の開発に貢献する人材を育成しています。	
電気工学科	電気機器システム、電子回路・物性デバイス、システム制御、電気エネルギーシステムを主たる学習領域とし、 あらゆる産業の土台であるエネルギーインフラの発展に貢献する人材を育成しています。	

情報工学部　収容定員：1360名

学科	概要	
情報工学科	情報科学、プログラミング、人工知能、コンピュータ技術を主たる学習領域とし、最先端のコンピュータ関連知識を持って高度情報化社会の発展に貢献する技術者を育成しています。	
情報通信工学科	通信技術、情報・ネットワーク技術とそれらを組み合わせた情報通信技術を主たる学習領域とし、現代社会に不可欠な情報通信インフラの発展に貢献する人材を育成しています。	
情報システム工学科	ロボット制御、人工知能、システムLSIネットワークを主たる学習領域とし、最新の情報技術とハードウェア技術を組み合わせ、 最適な社会システムの開発に貢献できる人材を育成しています。	
システムマネジメント学科	経営システム、生産システム、情報メディアシステムを主たる学習領域とし、情報技術を土台に企業経営の革新、効率化に貢献する人材を育成しています。	

社会環境学部（文系）　収容定員：660名

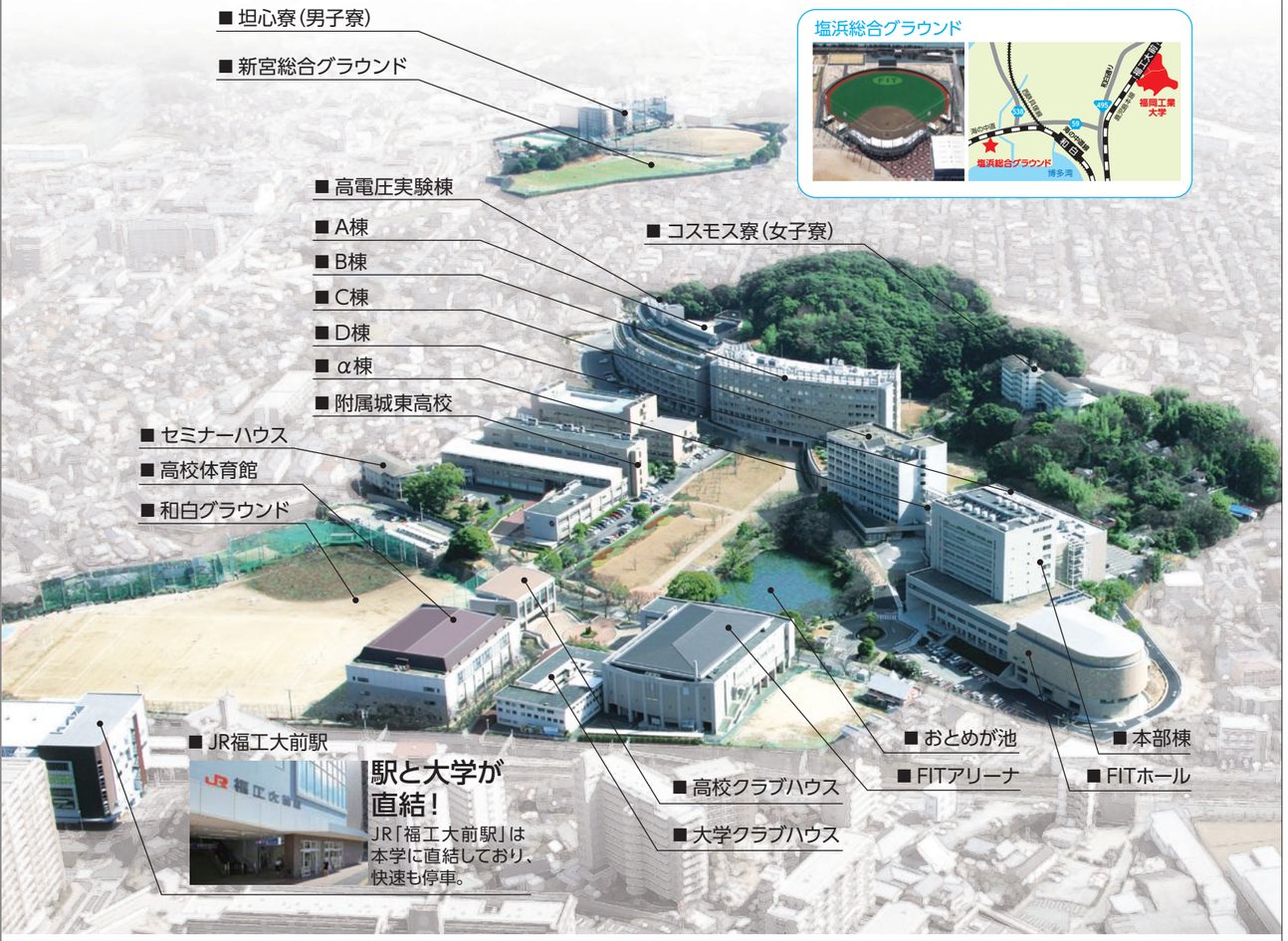
学科	概要	
社会環境学科	環境関連の教養を土台に経済・経営、法・政策、人間生活の3つの専門領域を学習し、これら3つの視点から環境問題の解決に貢献する人材を育成しています。	

短期大学部　収容定員：320名

学科	概要	
情報メディア学科	情報技術、情報メディア技術を主たる学習領域とし、コンピュータ知識やマルチメディア技術を持って、情報分野、エレクトロニクス分野で即戦力として活躍できる人材を育成しています。	
ビジネス情報学科	経営、会計、情報技術を主たる学習領域とし、高レベルなビジネススキルを持って、様々なビジネスシーンで即戦力として活躍できる人材を育成しています。	

キャンパス概要

「福岡市都市景観賞」や「花と緑のふくおか県づくりコンテスト県知事賞」を受賞した本学キャンパスは、環境保全及び景観への配慮と新しい教育ニーズに対応できる最新設備を調和させた21世紀型エコキャンパスです。西日本屈指のICT設備を誇り、幹線10Gbpsの高速ネットワークで各棟が結ばれています。



塩浜総合グラウンド

FITセミナーハウス開設

学生・生徒・教職員が共に集い、共に学び、実社会で通用性の高い人間性と知性を磨き高めることを基本精神として、課外教育施設・FIT セミナーハウスを大分県由布市湯布院町に竣工し、平成 24 年 8 月にオープンしました。ゼミやクラブ活動の合宿など、学生教育が一層充実したものとなるよう、活用していきます。

主要施設・設備

環境に配慮した設備

ソーラーシステム

屋上庭園

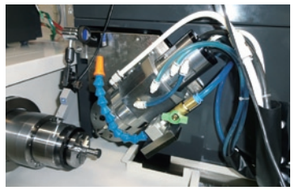
ビオトープ

先進的研究と実践的教育の基盤となる設備

エレクトロニクス研究所

情報科学研究所

環境科学研究所


次世代マイクロ/ナノ金型開発センター

半導体デバイス製作実験センター

モノづくりセンター

情報処理センター

図書館

高速ネットワークを支えるサーバーシステム

快適なキャンパスライフと地域貢献の拠点となる設備

FITアリーナ

FITホール

レストランOASIS

福岡工業大学キャンパスは「全面禁煙」です。

本学は、平成23年度より学生・教職員・学内外関係者の健康増進を目的として、キャンパス敷地内を「全面禁煙」としています。

平成24年度ハイライト［過去10ヶ年の活動指標の推移］

学生の進路決定状況は高位安定的に推移し、大学志願者は7年連続で拡大（短大は4年連続）。財政も安定的に推移しています。

	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
志願状況											
大学											
志願者	4,282	4,031	3,751	3,313	3,644	3,726	4,230	4,519	4,851	5,218	5,590
入学者	1,089	1,076	972	954	986	1,016	1,191	1,086	937	1,045	1,002
入学定員	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830	830
短大											
志願者	258	276	240	252	230	223	192	292	314	343	386
入学者	196	169	163	161	134	153	142	202	186	162	204
入学定員	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160	160
在籍学生状況											
大学											
在籍学生数	4,354	4,425	4,332	4,192	4,058	4,017	4,200	4,318	4,229	4,293	—
留年者数	346	338	336	308	318	350	379	453	396	346	—
退学・除籍者数	190	174	186	192	185	163	181	198	181	193	—
収容定員	3,380	3,380	3,380	3,380	3,380	3,380	3,380	3,380	3,380	3,380	—
短大											
在籍学生数	426	370	343	329	300	298	300	349	384	350	—
留年者数	13	19	13	12	17	19	13	25	22	23	—
退学・除籍者数	27	23	18	13	11	20	20	32	35	25	—
収容定員	320	320	320	320	320	320	320	320	320	320	—
進路状況											
大学											
卒業者数	857	940	962	982	925	897	836	868	844	986	—
就職者数	573	696	786	812	757	719	503	557	590	787	—
進学者数	56	58	57	54	57	52	93	59	54	50	—
就職率※	71.5	78.9	86.9	87.5	87.2	85.1	67.7	68.9	74.7	84.1	—
進学率※	6.5	6.2	5.9	5.5	6.2	5.8	11.1	6.8	6.4	5.0	—
短大											
卒業者数	193	165	157	149	144	121	132	119	160	151	—
就職者数	84	65	68	64	66	41	39	37	69	72	—
進学者数	44	62	61	57	50	46	48	51	54	53	—
就職率※	56.4	63.1	70.1	69.6	70.2	54.7	46.4	54.4	65.1	73.5	—
進学率※	22.8	37.6	38.6	38.3	34.7	38.0	36.4	42.9	33.8	35.1	—
収支状況（百万円）											
帰属収入	7,570	7,647	7,497	7,461	7,332	7,586	7,566	8,269	8,296	8,477	—
消費支出	7,414	8,281	7,268	7,234	7,120	7,305	7,528	8,017	8,130	8,015	—
帰属収支差額	156	-634	229	227	212	281	38	251	166	462	—
財政状態（百万円）											
総資産	33,271	32,484	32,535	32,735	32,890	33,380	33,472	33,671	33,785	34,045	—
自己資金	28,759	28,124	28,353	28,580	28,792	29,073	29,110	29,362	29,528	29,989	—
自己資金比率	86.4%	86.6%	87.1%	87.3%	87.5%	87.1%	87.0%	87.2%	87.4%	88.0%	—

※就職率＝就職者／（卒業者－進学者）　進学率＝進学者／卒業者

7年連続志願者増、過去13年間で最大の志願者数。

全国の短大の約70%が定員割れの中、志願者減に歯止め、定員確保に目処。

リーマンショック以降の全国的な新卒採用者数低迷の中、進路決定率が向上。

8年連続収支黒字、開学以来初の帰属収入80億円超え。H22以降安定的に80億円以上を維持。

高水準の自己資金比率、安定した財政状態が継続。

中期経営計画（マスタープラン）のこれまでの経過

第1次～第2次マスタープラン（平成10年度～平成15年度）

中期経営計画（マスタープラン）と単年度行動計画（アクションプログラム）による経営管理システムの確立、主要5領域（教育力、研究力、就職力、募集力、経営力）の重点目標設定。

第3次マスタープラン（平成16年度～平成18年度）

「個性化と教育力の強化によって競争優位を確保する」

- 志願者減少に歯止め
- 学科改編（生命環境科学科開設）
- JABEE認定（知能機械工学科、情報通信工学科）
- 教育改善推進委員会設置
- 総合研究機構設置

第4次マスタープラン（平成19年度～平成21年度）

「教育改革力の発揮とその成果に基づく募集力の強化」

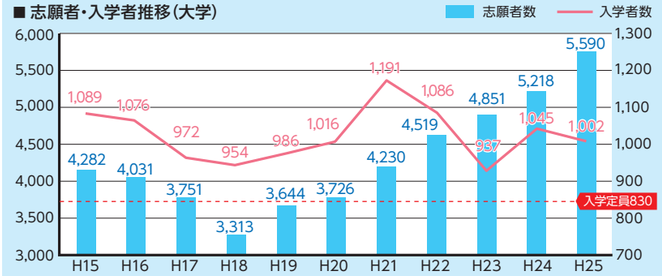
- 志願者のV字回復
- 国公私・コンソーシアム福岡開始
- フレッシュマンスクール設置
- 就職実務者会議設置
- 進路保証プログラム開始（短大）

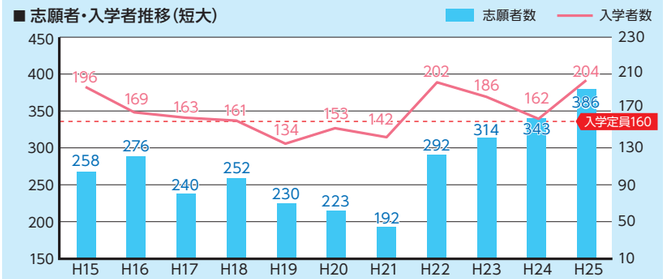
第5次マスタープラン（平成22年度～平成24年度）

「教育の質保証による社会に有為な人材の育成と地域社会への貢献」

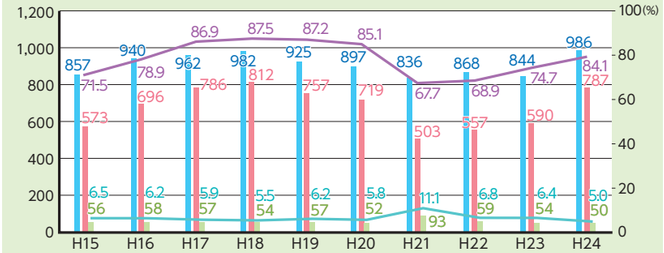
- 志願者の継続的増加
- 開学以来最高の帰属収入
- 帰属収支が過去最高に
- FD推進機構設置
- 就業力育成プログラム開始
- カリフォルニア事務所開設

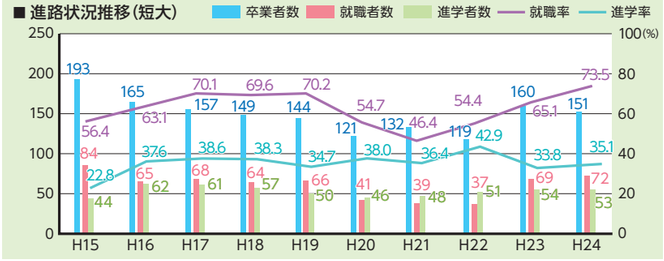
志願状況



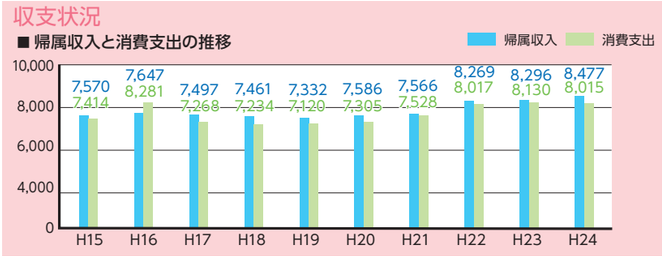


進路状況





収支状況



学術・研究の国際化・高度化が大きく進展しました。

4月　日本学生支援機構（JASSO）「留学生交流支援制度」に本学の3つの取組が採択

5月　九州工業大学と金型製造技術の向上を目的とした「連携協定書」を締結

キングモンクット工科大学スラユット・チュラノン理事長（元タイ王国首相）が本学を表敬訪問

7月　平成24年度コンソーシアム戦略会議開催

中小企業庁長官が本学マイクロ/ナノ金型開発センターを視察

8月　第8回先進材料科学および技術に関する国際フォーラムを本学で開催

9月　本学吹奏楽団タイ公演。タイ王国皇太子妃の前で演奏

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に本学が関わる3つの取組が採択

西日本新聞社と「地域社会の発展と教育上の諸課題に対応する包括連携協定」に調印

10月　本学人工衛星「FITSAT-1」宇宙空間への放出に成功

吹奏楽団が第60回全国吹奏楽コンクールで2年連続金賞受賞

11月　株式会社九電工との「研究開発における包括的連携協定」に調印

12月　本学人工衛星「FITSAT-1」LED光によるモールス信号試験に成功

カリフォルニア州立大学イーストベイ校総長が本学を表敬訪問

1月　JUNBAサミットに本学学長、常務理事が出席。大学のグローバル化に関する討議に参加。

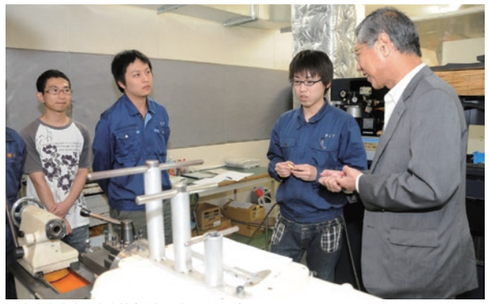
R&I社による格付更新で「A」評価を維持

3月　WBC開幕戦で本学吹奏楽団が国歌演奏

大学基準協会による第2期認証評価で適合認定を受ける

2012 4 Apr. / 5 May / 6 June / 7 July / 8 Aug. / 9 Sept. / 10 Oct. / 11 Nov. / 12 Dec. / 2013 1 Jan. / 2 Feb. / 3 Mar.

▲JASSOの支援制度に採択された本学の「日米協同教育プログラム」


▲中小企業庁長官来校（平成24年7月20日）

▲大学間連携共同教育推進事業

▲九電工と包括連携協定締結（平成24年11月27日）

▲九州工業大学との連携協定（平成24年5月1日）

▲第8回先進材料科学および技術に関する国際フォーラム（平成24年8月2日）

▲西日本新聞社との包括連携協定締結（平成24年9月26日）

▲JUNBAサミットに本学学長、常務理事が出席（平成25年1月11日）

▲キングモンクット工科大学・スラユット理事長来校（平成24年5月23日）

▲吹奏楽団タイ公演（平成24年9月4日）

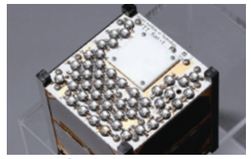
▲人工衛星「FITSAT-1」宇宙空間への放出に成功（平成24年10月5日）

▲大学基準協会の認証評価で適合認定

研究高度化の進展

本学人工衛星「FITSAT-1」が宇宙空間へ放出、通信実験に成功しました。

平成24年10月4日夜から10月5日未明にかけて、国際宇宙ステーション（ISS）の日本実験棟「きぼう」から本学の人工衛星プロジェクトチームが開発した衛星「FITSAT-1」が宇宙空間に放出されました。本衛星は、独自の 5.8GHz の送信機による通信実験や LED による光通信実験を主目的として開発され、10月25日に衛星に搭載されたカメラで撮影した国際宇宙ステーションの画像データを地上に送信することに成功しました。


▲人工衛星「FITSAT-1」

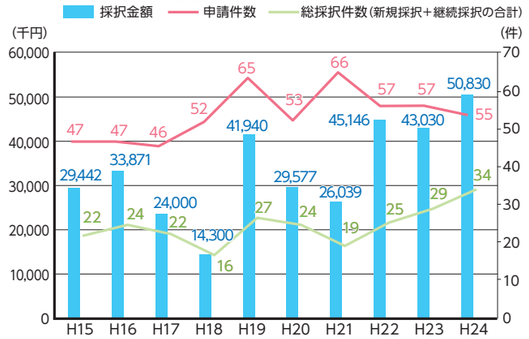
科学研究費の採択件数・金額が近年最高の水準となりました。

平成24年度の科学研究費補助金の採択実績は、採択件数34件、採択金額が約50,830千円で、過去15年来で最多の採択件数となりました。これは九州の私立工業系大学としては高い水準にあると言えます。

本学では研究支援組織として総合研究機構を設置し、組織的に研究活動の支援に取り組んでいます。科学研究費補助金に対しては、例年40% の教員が申請しており、研究活動が活性化しています。

➡ 研究事例はP17,18　研究活動ページへ

■ 科学研究費の採択実績推移



教育力の向上

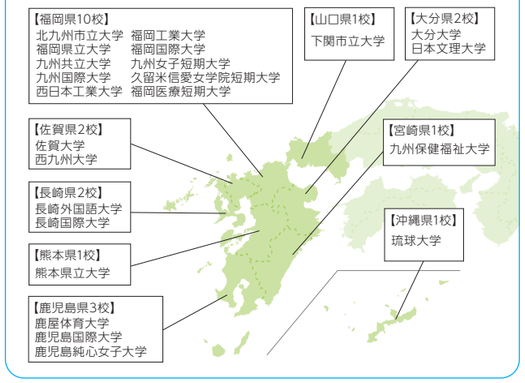
3つの取組が文部科学省より補助採択され、九州地域の職業人育成の中核拠点として大きな期待を受けています。

本学は大学生の就業力育成を重要課題として位置付け、全学的キャリア教育プログラムを策定し、この取組は、文部科学省の補助事業に採択されるなど、学外から一定の評価を受けてきました。

平成24年度は、そのキャリア教育プログラムを他大学との連携によって拡充し、より一層産業界の人材ニーズに対応できるよう、取組の進展を図りました。この成果として、様々な大学、産業団体、企業と連携した3つのキャリア教育関連プログラムが新たに文部科学省の補助事業に採択され、平成25年度より本格的にスタートします。

➡ 取組の詳細は、P19「キャリア教育の充実」及びP27「大学間連携を活用した教育内容の充実」ページへ

「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」参加校



「未来像を自ら描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成」参加校

九州大学　国立大学法人 九州工業大学　国立大学法人 熊本大学　福岡大学　FIT 福岡工業大学

「産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成」参加校

京都産業大学　成城大学　新潟大學　FIT 福岡工業大学

経営・財政力の強化

本学の経営管理システムが先進事例として評価され、全国に発表されました。

本学の経営管理システム強化施策「PDCA の実質化と先進的情報公表に向けたIR活動」の取組が、私学事業団の平成23年度「未来経営戦略推進経費（経営基盤強化に貢献する先進的な取組）」に採択されました。日本私立大学協会主催の事務局長担当者研修会において、本学常務理事・大谷が全国の大学経営幹部に対し、本取組について発表するなど、経営管理システムの先進事例として高い評価を受けました。

➡ 取組詳細はP43「経営・財務」ページへ

▲発表を報じる教育学術新聞

過年度より引き続き健全な収支状況・財政状態を堅持しています。

平成24年度決算は、収支状況は帰属収入が約84.7億円に対して消費支出が約80億円となり、約4.7億円の収入超過となり、8年連続帰属収支が黒字となりました。教育研究の基盤である人件費と教育研究経費が帰属収入内で十分に確保されており、バランスの良い収支状況となっています。

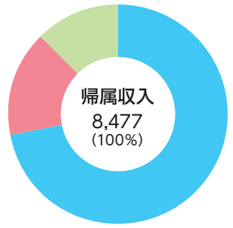
➡ 決算データの詳細はP57へ

財政状態については、負債比率が低く、学園の総資産の大半が自己資金（正味財産）で賄われた状態となっており、また、その他の固定資産の大半が現金及び金融資産であり、流動性と柔軟性の高い、健全な財政状態を継続しています。

収支状況

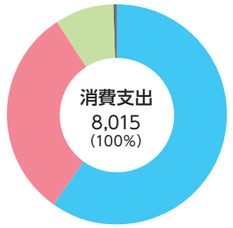
平成24年度消費収支計算書の概要（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）

■ 帰属収入内訳（単位：百万円）



- 学生生徒納付金… 6,088（71.8%）
- 補助金 …… 1,199（14.1%）
- その他 …… 1,190（14.0%）

■ 消費支出内訳（単位：百万円）

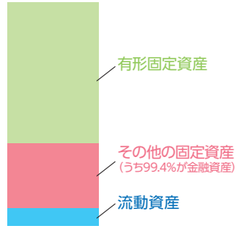


- 人件費 …… 4,560（56.9%）
- 教育研究経費… 2,662（33.2%）
- 管理経費 …… 777（9.7%）
- その他 …… 16（0.2%）

財政状態

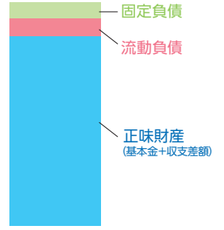
平成24年度貸借対照表の概要（平成25年3月31日現在）

■ 資産の構成（34,045百万円）



- 流動資産 …… 2,323（6.9%）
- その他の固定資産 …… 10,530（30.9%）
- 有形固定資産…21,191（62.2%）

■ 負債、基本金等の構成（34,045百万円）



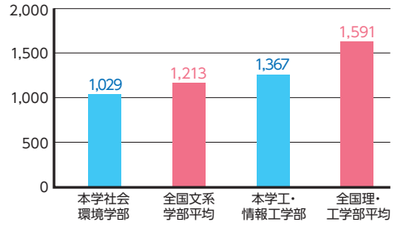
- 正味財産…… 29,989百万円（88.1%）（基本金+収支差額）
- 流動負債 …… 2,243百万円（6.6%）
- 固定負債 …… 1,811百万円（5.3%）

安定した経営状況を土台に低学費政策を堅持し、積極的に学生へ還元しています。

上述の安定した経営状況を土台として、学生が経済的事情で就学機会をあきらめることのないよう、低学費政策を採用し、学生へ還元しています。右記の学生納付金調査結果の通り、本学の徴収学費は全国の理工系学部、文系学部の平均を下回り、全国トップクラスの低学費となっています。その他学業成績や経済的理由による特別奨学金制度を設け、約3.7億円の奨学費を計上し、約400名の学生の学費を減免するなど、教育の機会均等に向けて積極的な取組を実施しています。

社会環境学部は学際系学部で全国1位、工学部・情報工学部は理工系学部で全国6位の低学費です。「2013年度版 大学ランキング」朝日新聞出版より

■ 学部系統別学生納付金調査結果（単位：千円）
日本私立大学団体連合会「平成24年度 学生納付金等調査」より



平成24年度ハイライト［学生の活躍］

学業、スポーツ、地域貢献活動など各方面で学生が大きな活躍を見せてくれました。

理事長表彰者

福岡工業大学小型人工衛星 FITSAT-1 の開発と運用に貢献

小型人工衛星プロジェクトチーム

全日本吹奏楽コンクール2年連続金賞

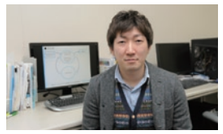
大学吹奏楽団

学会表彰者

大学院

表面技術協会　九州支部　優秀学生賞
中澤歩三男　工学研究科生命環境科学専攻（高知県立高知工業高校）
日本化学会低次元系光機能材料研究会サマーセミナー　優秀ポスター賞
山本 伸也　工学研究科生命環境科学専攻（大分県立臼田高校）
日本機械学会　三浦賞
越智 裕章　工学研究科知能機械工学専攻（福岡県立筑紫丘高校）
砥流加工学会　学術講演会　優秀講演論文賞
橋本 明典　工学研究科知能機械工学専攻（島根県立益田工業高校）

電気学会　九州支部長賞
足立 孝仁　工学研究科電気工学専攻（鳥取県立鳥取湖陵高校）
電子情報通信学会　九州支部学生会　講演会奨励賞
猪俣 和史　工学研究科情報通信工学専攻（福岡県立香椎工業高校）
BWCCA-2011　Best Paper Award
IEEE AINA-2012 Highly Commended Paper Award
電子情報通信学会　九州支部　学術奨励賞
小田 哲也　工学研究科情報通信工学専攻（私立藤蔭高校）



大学

電子情報通信学会　九州支部　成績優秀賞
江頭 俊昭　工学部電子情報工学科（佐賀県立佐賀工業高校）
資源・素材学会　九州支部　Outstanding Student Award, Kyushu MMIJ
加来 杏理　工学部生命環境科学科（私立鎮西学院高校）
日本金属学会・日本鉄鋼協会　九州支部長賞
半田 隼人　工学部生命環境科学科（久留米市立南筑高校）
日本金属学会・日本鉄鋼協会　九州支部長賞
山﨑 愛実　工学部生命環境科学科（私立九州産業大学付属九州高校）
日本機械学会　畠山賞
吉武 翼　工学部知能機械工学科（大分県立大分高校）
精密工学会　九州支部　ベストプレゼンテーション賞
安河内秀和　工学部知能機械工学科（福岡県立鞍手高校）
電気学会　九州支部長賞
赤松 慶一　工学部電気工学科（福岡県立八幡南高校）
電子情報通信学会　九州支部　成績優秀賞
髙田 暢子　情報工学部情報工学科（福岡工業大学附属城東高校）
電子情報通信学会　九州支部　成績優秀賞
槇　俊孝　情報工学部情報通信工学科（長崎県立大村工業高校）
電子情報通信学会　九州支部　成績優秀賞
小林 南乃　情報工学部情報システム工学科（私立福岡女学院高校）
日本経営工学会　優秀学生賞
大野 由貴　情報工学部システムマネジメント学科（私立中村学園女子高校）

短期大学部

電気学会　九州支部長賞
末宗 光博　情報メディア学科（山口県立下関工業高校）

平成24年度 博士号授与者

堺 眞砂美
工学研究科
物質生産システム工学専攻
（私立博多女子高校）
（福岡工業大学短期大学部）

平成24年度 日本学術振興会 特別研究員

肥山 昌弘
工学研究科
知能情報システム専攻
（福岡県立柏陵高校）

学長表彰者

大学

成績優秀者

工学部	電子情報工学科	柴岡 毅之（福岡県立福岡工業高校）
	生命環境科学科	白石 周平（福岡県立筑紫中央高校）
	知能機械工学科	江原 揚平（佐賀県立小城高校）
	電気工学科	赤松 慶一（福岡県立八幡南高校）
情報工学部	情報工学科	高田 暢子（福岡工業大学附属城東高校）
	情報通信工学科	富浦 和也（長崎県立大村工業高校）
	情報システム工学科	小林 南乃（私立福岡女学院高校）
	システムマネジメント学科	岸田 幸恵（福岡県立小倉商業高校）
社会環境学部	社会環境学科	中元 志緒（福岡県立博多青松高校）

第19回 九州学生Ⅰ部決勝リーグ　優勝
平成24年度 九州学生春季リーグ戦（Ⅰ部）　優勝
ラグビー部
第60回 全日本吹奏楽コンクール　金賞
第57回 九州吹奏楽コンクール　金賞
吹奏楽団
第36回全日本アンサンブルコンテスト　銀賞
第38回九州アンサンブルコンテスト　金賞
吹奏楽団　クラリネット四重奏
第1回ヤングリゾートカップ PJ カップ IN 霧島　優勝
サッカー部
平成24年度九州大学秋季バレーボール男子リーグ戦　第1位
バレーボール部
日頃の学内外清掃活動に対して
環境サークルオアシス部
地域防犯ボランティア・大学周辺のパトロール活動
防犯ボランティア団体　コミュニティパトロール隊
福岡工業大学小型人工衛星 FITSAT-1 の開発と運用に貢献
小型人工衛星プロジェクトチーム
第41回 福岡六大学野球 春季リーグ戦　ベストナイン、打撃十傑
鎌田 和樹　情報工学部システムマネジメント学科（鹿児島県立伊集院高校）
第41回 福岡六大学野球 春季リーグ戦　ベストナイン、打点王
枇　祐樹　社会環境学部社会環境学科（大分県立国東高校）
第41回 福岡六大学野球 春季リーグ戦　打撃十傑
八児祐太朗　社会環境学部社会環境学科（私立宮崎学園高校）
第41回 福岡六大学野球 春季リーグ戦　敢闘賞
松尾真太郎　社会環境学部社会環境学科（鹿児島県立鹿児島実業高校）
第41回 福岡六大学野球 秋季リーグ戦　新人賞
笛田 怜平　社会環境学部社会環境学科（鹿児島県立鹿児島南高校）
第41回 福岡六大学野球 秋季リーグ戦　ベストナイン
松藤 翔太　情報工学部システムマネジメント学科（福岡工業大学附属城東高校）

第26回 九州学生女子体重別選手権大会　女子 78kg 級　優勝
木下 菜月　社会環境学部社会環境学科（福岡工業大学附属城東高校）
平成24年度 福岡県大学準硬式野球春季リーグ戦　首位打者
寺地 賢介　工学部電気工学科（鹿児島市立鹿児島玉龍高校）
第62回 九州地区大学体育大会 水泳 100M 自由形　第2位
梶谷 まり　情報工学部情報工学科（佐賀県立致遠館高校）
佐賀県保護観察所における更正保護事業に協力
山口 大輔　情報工学部情報工学科（私立龍谷高校）
第50回 九州学生弓道選手権大会 女子個人　準優勝
村山みのり　情報工学部情報通信工学科（長崎県立諫早高校）
第50回 九州学生弓道選手権大会 男子個人　第５位
小柳 隆志　工学部生命環境科学科（私立龍谷高校）
縄跳びによる地域貢献活動
佐藤 拓広　情報工学部情報システム工学科（福岡県立嘉穂東高校）

短期大学部

第29回 全日本エアロビック選手権大会 ペア部門　優勝
菖蒲谷真紀　ビジネス情報学科（私立沖学園高校）
第9回 JBA ソロコンテスト九州大会　金賞
屋冨祖 萌　ビジネス情報学科（沖縄県立南風原高校）

成績優秀賞

情報メディア学科	西村 彰悟（佐賀県立致遠館高校）
	田中 貴裕（福岡県立香椎工業高校）
ビジネス情報学科	宮本 貴美子（福岡県立ありあけ新世高校）
	片山 和美（福岡県立光陵高校）

CG-ARTS 協会賞
天本小百合　情報メディア学科（私立九州産業大学付属九州高校）
貢献賞
西村 彰悟　情報メディア学科（佐賀県立致遠館高校）
赤司 千怜　ビジネス情報学科（福岡県立玄洋高校）
特別貢献賞（短大卒業生への表彰）
佐藤　武　情報工学部情報工学科（福岡県立博多青松高校）
川辺 兼嗣　情報工学部情報工学科（鹿児島県立加治木工業高校）
谷川 弘樹　情報工学部情報工学科（福岡県立博多青松高校）
最多資格取得賞
西村 彰悟　情報メディア学科（佐賀県立致遠館高校）
花田 捺美　ビジネス情報学科（久留米市立南筑高校）
皆勤賞

情報メディア学科	神坂 良生（山口県立下関工業高校）
	天本 小百合（私立九州産業大学付属九州高校）
ビジネス情報学科	宮本 貴美子（福岡県立ありあけ新世高校）
	堀内 悠里（福岡県立福岡講倫館高校）

経営改善の継続とその成果が、全国の大学の先進事例として高い評価を受けています。

格付評価で高評価の「A」を堅持しました。

株式会社格付投資情報センター（R＆I）による格付の更新審査を受審し、経営管理システムや学生募集、進路決定支援、財務状況などが総合的に評価され、平成22年度、23年度に引き続き、3年連続で「A」評価を受けました。地方の工業系私立大学としては高評価で、企業ではふくおかフィナンシャルグループや西鉄などと同等の格付となります。

格付「A」の主な企業

- ふくおかフィナンシャルグループ
- 三菱ケミカルホールディングス
- 西鉄
- ダイキン工業
- 大林組
- 日産自動車
- 日本ハム
- イオン　など

▲R&I社のニュースリリース

大学基準協会の認証評価で適合認定を受けました。

公益財団法人大学基準協会による第2期目の認証評価を受審し、大学基準適合認定を受けました。

大学基準協会では大学の質の維持と向上を図ること、そして、大学評価（認証評価）を通じて大学の質を社会に保証することを目的に『内部質保証システムの構築』を提言しています。本学では、中期経営計画（マスタープラン）を中心として、さまざまな部門で PDCA サイクルを機能させており、『内部質保証システムを適切に機能させている』と評価されました。

Japan University Accreditation Association since 1947
UNIVERSITY ACCREDITED 2013.4~2020.3

大学情報誌などで高評価で紹介されています。

大学探しランキングブック 2013　大学通信

面倒見が良い大学	就職に力を入れている大学	改革力が高い大学
九州私学1位（全国13位）	九州私学1位（全国24位）	九州私学2位（全国28位）

大学ランキング 2014 朝日新聞社

募集力（志願者の推移・2008 年と2012年の比較）	学長からの評価（よくなったと評価できる）	事務局長からの評価（経営戦略）
九州私学3位（全国56位）	九州私学2位（全国26位）	九州私学1位（全国13位）

事務局長からの評価（財務管理・資産運用）	事務局長からの評価（入試・広報）
九州1位（全国25位）	九州1位（全国19位）

週刊東洋経済　平成24年10月27日号「本当に強い大学」

将来の幹部職員を育成するためにカリフォルニア州立大学イーストベイ校で実施している、職員研修プログラム「FAST プログラム」が、経営力の高い大学の好事例の一つとして大きく紹介されました。

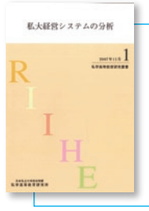
大学研究誌等で先進事例として数多く紹介されています。

本学は経営計画に沿って安定した学園運営を行っていますが、当該経営管理システムについて、日本私立学校振興・共済事業団（文部科学省委託研究）や日本私立大学協会の調査等で高い評価を得ました。それらの調査・研究の結果は、研究機関誌等で紹介されています。

「大学経営強化の事例集」

文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。

(2007.3)



「私大経営システムの分析」

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所の大学経営研究において、本学が教育改革を推進する経営システムを有しているとして高い評価を受け、紹介されました。

(2007.11)

「学校法人」

経営計画に基づく経営手法（PDCA による経営管理）について、高く評価され紹介されました。（日本私立大学協会レポート）

(2008.2)

「私学経営」

私学経営研究会セミナー（東京・大阪の二地区で開催）における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。

(2008.3)

「学校法人」

経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。（日本私立学校振興・共済事業団レポート）

(2008.7)

「大学外組織評価研究会」

大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。

(2009.3)

「カレッジマネジメント」

予算管理と結びつけて経営計画・行動計画を実質化する取り組みについて、「お手本のような事例」として紹介されました。

(2009.5)

「大学評価・学位研究」

本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。

(2010.3)

「カレッジマネジメント」

次世代リーダーを育成するために実施している、アメリカ研修プログラム（FASTプログラム）が他大学にない独創性と密度の濃さがあると評価され、紹介されました。

(2011.1)

「大学経営の評価システム」

本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。

(2012.3)

「教学IRとエンロールメント・マネジメントの実践」

本学の中期経営計画に基づいた経営管理システムが、実行できる中長期経営計画の作り方の好事例として、常務理事、事務局長のインタビューと併せて紹介されました。

(2012.3)

「中長期経営システムの確立、強化に向けて」

実効性のある中長期経営システムの構築に関連する事例調査の対象校の一つとして選定され、本学の中期経営計画に基づいた運営の特長が紹介されました。

(2013.2)

地域・社会のニーズに対応した高レベルの研究活動を通じ、社会の発展に貢献しています。

本学は、3つの研究所、および産学連携推進室より総合研究機構を組織し、学内での基礎研究や実用化に向けての研究を行っています。また、研究シーズを育て、企業との共同研究などに発展させることにより社会へ貢献することを大きな使命と考えています。

総合研究機構に設置されている3つの研究所で、社会に貢献する研究を行っています。

エレクトロニクス研究所

▲高性能機器を揃えた計測センター

電子材料、デバイス、電子計測、光エレクトロニクスを研究する「電子工学部門」と、機械材料、精密加工、エネルギー変換、電気機器等を研究する「生産工学部門」、物理学、数学等の「関連部門」で構成され、その成果は、国内外の学会誌等に発表されたり、研究所報に報告される等、広く紹介されています。また、レーザーイオン化飛行時間型質量分析装置やマーカス型高周波グロー放電発光表面分析装置等を導入する等、高性能機器を揃えた付属施設「計測センター」を併設しています。

情報科学研究所

▲CAVE（小型多面立体視）システム

昭和63年に言語情報工学研究所として発足し、平成10年4月に現在の研究所に改組。全学共同利用の研究施設として知能メディア、システム科学、情報応用の3部門を設置して、情報科学分野の研究を進めています。人工知能を始めとする知能情報処理の研究や知能ロボットの研究、バーチャルリアリティや3次元グラフィックスを含む画像や音声の情報処理の研究、モバイル通信、インターネット等の情報ネットワークの研究等を行っています。

環境科学研究所

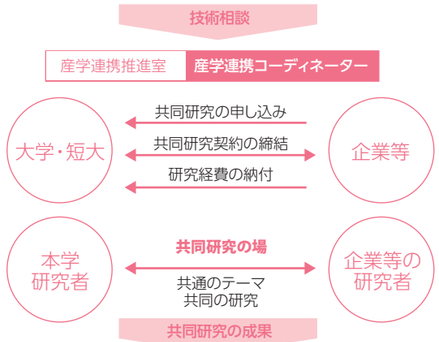
▲環境への取組み～地球とともに

環境に関わる諸問題は複合的な要素を含み、その解決に向けては、多様な研究分野からのアプローチが必要です。このことを踏まえ、本研究所は学内外の研究者との交流を深めながら、環境に関わる学際的な研究拠点を目指します。また、地域住民の循環型社会に向けた実践的な行動を支援し、環境の学術的機関としての地域貢献活動に取り組んでいます。

産学連携推進室では共同研究・受託研究を通して研究成果を地域社会へ還元しています。

共同研究の流れ

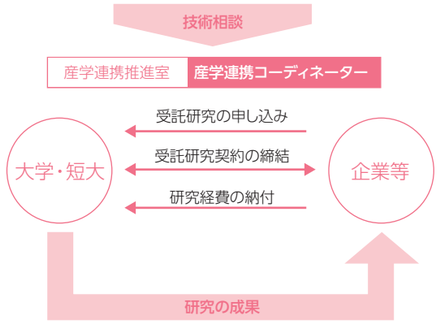
共同研究は、大学の研究者と企業の研究者が対等の立場で共通の研究テーマについて研究を進めるものです。公的な補助金等の適用が可能です。



（例）特許の共同出願

受託研究の流れ

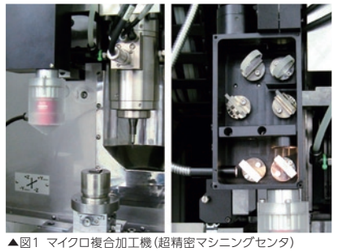
受託研究は、大学の研究者が企業等からの委託を受けて研究を実施し、その研究成果を委託者に報告するもので、研究費は委託者の負担となります。公的な補助金等の適用も可能です。



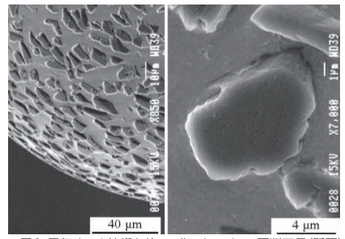
成果報告

世界で唯一の技術を多く保有し、「工業技術立国」の発展に貢献しています。

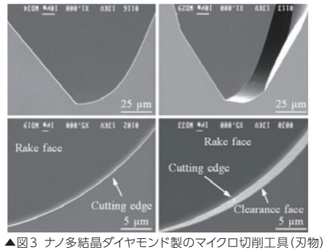
超精密微細加工技術の開発



▲図1 マイクロ複合加工機（超精密マシニングセンタ）



▲図2 電気めっき技術を使って作ったマイクロ研削工具（砥石）

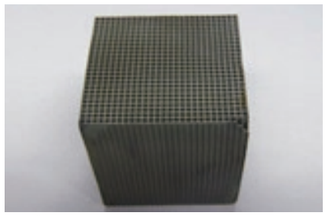


▲図3 ナノ多結晶ダイヤモンド製のマイクロ切削工具（刃物）

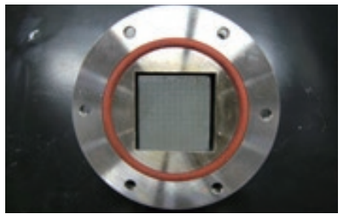
次世代マイクロ / ナノ金型開発センターでは、超精密微細部品を作ることができる技術の開発を行っています。図1に示したのは、レーザ加工や切削・研削加工を行うことができるマイクロ複合加工機です。図2に示したのは超硬合金に対して鏡面を作ることができる砥石、図3に示したのは超硬合金を削ることができる刃物です。何れも世界で一つしかない、福岡工業大学だけが持つモノづくり技術です。

オゾンを分解するフィルターの開発

▲オゾン発生装置とオゾン濃度計



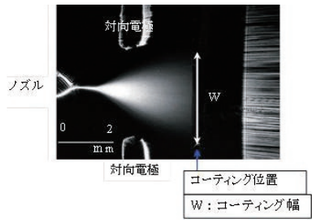
▲オゾンフィルター



▲治具にセットしたもの

オゾンは強い酸化力があり、医療や食品分野を中心に殺菌や漂白に用いられていますが、一方で、高濃度のオゾンは人体に有害であり、環境中に放出される不要なオゾンを分解する技術が求められています。工学部生命環境科学科の太田・北山両教授は「多孔体コーティング技術」を応用し、従来の二酸化マンガン系触媒では分解が困難だった高濃度オゾンを、常温下において環境基準値以下まで分解できる高効率なオゾンフィルターを開発しました。

高度な情報技術、環境関連技術が実社会で活用されています。



静電誘引形インクジェット技術の応用研究

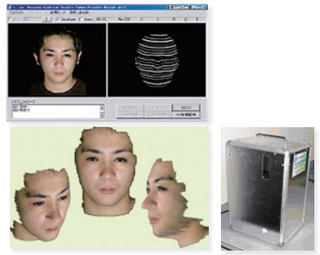
インクジェットの原理を応用した記録装置は写真画質を持つほどに完成されました。現在は、記録装置以外への新たな応用研究が試みられており、再生医療や生産技術、さらには食品関係など幅広い分野での応用が期待されています。

▲洪水氾濫しているとき

洪水氾濫していないとき ▶

河川氾濫予測情報提供システム

GPS付スマートフォンで、現在位置に一番近い一級河川のデータを取得して計算し、洪水氾濫予測結果を3次元表示します。リアルタイムに必要なデータは、国交省河川局がホームページで公開している推移と雨量のみで、降雨データだけでなく、上流の水位を用いるので高精度な洪水予測となっています。



3次元立体カメラ

「最適パターン光投影三次元画像計測機」とも呼ばれ、一瞬で物体の3次元立体形状を撮影でき、寸法や空間座標の計算をすることができます。一瞬で計測できるというメリットを活かし、生産物の計測と品質管理、顔や人体の立体計測と認証、またセキュリティ等の分野に応用が可能です。

「就業力育成プログラム」を全学的にカリキュラムに組み込み、本格稼働させています。

平成22年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された、本学の就業力育成プログラム『『4つの力』育成によるキャリア形成支援」のカリキュラムを整備し、就業力育成プログラムを開始しました。

就業力に必要な「4つの力」を確実に身につけ、段階的に成長していくプログラムを整備しました。

■就業力育成プログラムの概要

平成22年度文部科学省・大学生の就業力育成支援事業採択

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
志向する力	キャリア形成							
共働する力	日本語表現	コミュニケーション基礎						
解決する力			技術者倫理	→	→	→		
実践する力	←	←	←	就業実習 特定専門科目	→	→	→	→

「志向する力」は、将来の職業や生き方について自ら考え、目的とする方向を目指して行動する力です。この力の育成のために入学前には、自分の将来についての作文課題が課され、入学後の個人面談では、提出された作文の内容に基づいたアドバイスが行われます。また、1年次前期の「キャリア形成」※（必修2単位）では、基礎的なスタディ・スキルのほか、目標設定、計画立案、自己管理等の具体的手法を学び、作文と面談を通じて考えてきた自分の大学生活や卒業後の職業生活への展望をさらに明確なものにできるように学んでいきます。※社会環境学科では「キャリア形成」

志向力

「共働する力」は、共に考えを伝え合い、協力しながら活動する力です。この力の育成のために、1年次前期の「日本語表現」※1（選択、2単位）では、大学生活で目的に応じて文章を書くために必要な日本語の基礎知識や書き言葉の表現法を身付けます。また、2年次後期の「コミュニケーション基礎」※2（必修、2単位）では、グループワークを通じて、論理的思考や基本的な議論・プレゼンテーションの方法を実践的に習得していきます。※1社会環境学科では「日本語表現法I」（1年次前期選択、2単位）、「日本語表現法II」（1年次後期選択、2単位）※2社会環境学科では「コミュニケーション基礎」（2年次前期、必修、2単位）

共働力

「解決する力」は、問題を発見し、適切な方法でその解決を図る力です。この力の育成のために、2年次、3年次には、各学科における「技術者倫理」およびそれに相当する科目で、ケースメソッドとグループディスカッションの手法を用いた授業が展開され、問題発見から解決策の提案までのプロセスを学びます。またそれと同時に、技術者が社会に対して保持すべき倫理観を身につけ、専門分野における思考力・問題解決力・コミュニケーション力を高めていきます。

解決力

「実践する力」は、学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力です。この力の育成のために、「就業実習」（2年前期、3年前期）※では、インターンシップを実施し、就業体験（企業において実習・研修を経験すること）を通じて、実際的な職業観を高めていきます。また、より高度な実践力を身に付けるために他学科で開講されている「特定専門科目」を受講できる制度が設けられています。※社会環境学科では「キャリア形成皿」（3年後期）

実践力

■達成目標

無業者率の低下

本学を卒業する者のうち、就職先または進学先が未定のまま卒業した者の割合の低減。

目標値 **11.8%以下**

直近5ヵ年の最低値以下

授業評価の向上

就業力育成プログラムとして、指定した科目に関する学生の授業評価結果の向上。

目標値 **3.0以上**

科目ごとの総合評価（満点=4.0）

就職活動の満足度向上

本学を卒業する学生が自分の就職活動とその結果に対しての満足度の向上。

目標値 **平均3.0以上**

就職活動の満足度（満点=4.0）

就職先企業の満足度向上

本学学生に対する評価の向上。

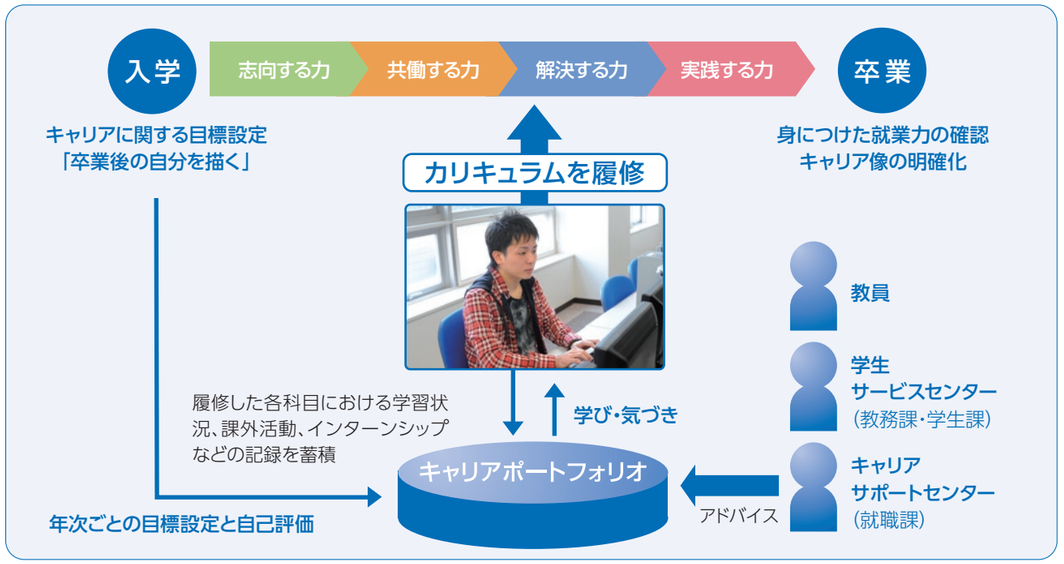
目標値 **平均3.0以上**

就職先企業の満足度（満点=4.0）

就業力に関して、学生自らが目標設定と評価を行い、気づきや学びを記録し、活用するシステムを整備しています。

キャリアポートフォリオは大学生活のなかで体験していくことを自ら記録し、振り返ることによって、自分の成長を感じ取ったり新たな課題を発見したりしながら、4年間の学習成果としてどのような「就業力」が身に付いたかを確認できるシステムです。

● キャリアポートフォリオの概要



志向力を培う「キャリア形成」の授業では、他者との交流を通じて人生観や就業観を養います。

この授業では、自己や社会に対する理解を深めながら自分自身の将来設計を考えていきます。他者との交流を通して、他の人の考え方や生き方に触れたり、体験しながら学んだりする機会が数多く取り入れられています。

大学での学び

大学における学びと高校における学びの違いについて、様々なゲストスピーカーや仲間と交流しながら、この問いに対する自らの答えを探ります。

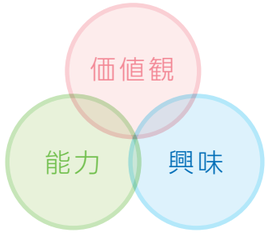
学長講話 学長が本学の魅力について語ります。

研究室訪問
グループごとに研究室を訪問し、先生にインタビューします。

自己とキャリア

自己のアイデンティティを探究し、自分自身と向き合うことで、将来の方向性を探り、向学心を高めます。

自己分析 興味・能力・価値観について分析し、自分の強みと弱みを把握します。



キャリアデザイン
自己実現に向けた今後の具体的な行動計画をキャリアデザインシートにまとめます。

社会で求められる人材と共働

社会で求められる人材とはどのような人物なのか。仲間と共働しながら業界・企業研究を進め、社会や社会人についての理解を深め、自分が大学で身につけるべき力は何かを考えます。

業界研究
OB・OGのDVDを視聴し、社会人になった先輩方の声を聞きます。また、"先輩が企業の中で遭遇した問題場面"への解決策をグループ皆で考えます。

就職内定率100%を目指し、初年次から卒業後にいたる、段階的な就職支援体制を整備しています。

本学の学生が就職活動で確実に内定が獲得できるよう、初年次より早々に就職への意識を高めるよう、様々な角度から段階的に支援しています。また、地元九州を重点に安定・成長求人先を積極的に開拓しており、今後は九州各地、関西、関東へ求人先を開拓していきます。

就活学生を最後まで「一人にしない」、「悩ませない」きめ細やかな体制を確立しています。

本学の就職支援は、入学後早期に開始し、卒業まで学生の状況に応じて段階的に支援する体制としており、1年次は就職に備えた人間形成、2年次は就業意識の涵養、3年次・4年次は実践的な就職活動対策を重点とした3段階のプログラムを実施しています。また、万一就職先未決定の場合は、卒業後もキャリアプランの再設計を実施し、「最後の一人まで」放置しないきめ細やかな支援体制を構築しています。 ➡ **就職実績詳細はP51**

■就職支援の概要

キャリアプランニング支援

	カリキュラム	就職支援の取り組み	
STEP1 1年次	■キャリア形成 ■日本語表現 ■コミュニケーション基礎	・学生生活プランニング指導 ・あいさつ教育 ・キャリアプランニング講座 ・就職意識調査（個人面談） ・就職オリエンテーション	目的意識
STEP2 2年次	■技術者倫理 ■就業実習（インターンシップ）	・OB/企業人ガイダンス ・グループディスカッション体験 ・業界研究会	目標設定
STEP3 3・4年次	■就業実習（インターンシップ） ■卒業研究	・学内合同企業セミナー ・保護者ガイダンス ・履歴書添削指導 ・模擬面接指導 ・就活交通費支援 ・SPI対策講座 ・筆記試験対策	就職活動

＋

新たな課題

- **採用の厳選化**
- **採用の多様化**

◎仕上げの教育・補完教育・延長教育として
◎セーフティネットとして

卒業後の1年間　就活学び直し

プラスワンプロジェクト

対　象	◎内定取り消しの学生 ◎内定がとれない学生 ◎就職教育が間に合っていない学生
取り組み	**専属のカウンセラーを配置** ◎キャリアプランの再設計 ◎ビジネスマナーの再教育 ◎有用性の高い資格取得支援

■主な就職支援の取組

学科別・個別の指導体制を整備

大学3年生の5月より学科別に就職ガイダンスを実施し、各学科の特徴をふまえた的確な指導を可能としています。また、希望者全員を対象に個人面談を実施し、その後の個別指導、求人の紹介・履歴書添削を丁寧に行っています。

優良企業とのマッチング強化

学生と企業とのマッチング機能を強化するため、地元金融機関と連携し、そのネットワークを活用した有力企業の求人開拓を進めています。今後も九州、関西、関東と安心して学生を送り出せる就職先を拡大していきます。

学内合同企業セミナー

平成24年度は、5回の学内合同企業セミナーが実施され、累計560社、延べ3900名の学生が参加しました。内定者実績も300名を超え、本学の就職一大イベントとなっています。

保護者セミナー

昨今の厳しい就職戦線では、学生ひとりで内定を勝ち取るのは非常に難しい状況にあります。本学では、保護者の方に就職環境や大学の取組を理解していただき、学生・保護者・大学が三位一体となって就職活動を推進しています。

模擬面接の充実

企業の人事部長を長年務めた就職アドバイザーやこれまで幾人もの就職相談に応じてきたキャリアカウンセラーから、模擬面接、エントリーシート添削、グループディスカッションなどのポイントを学ぶことができます。

インターンシップ派遣

年に2回、春休みと冬休みを利用して学生は実際に企業で仕事を体験します。実践的な仕事を体験することで、仕事や企業をより深く理解し、自分自身の適性を判断する大きなきっかけとなっています。

就職活動情報登録閲覧システム（Sugoogle）

本学OBの就活体験をデータベース化し、後輩に語り継いでいくシステムを整備しました。学生は自分の志望企業に対し、先輩がどのような就職活動を行ってきたのか閲覧し、事前対策を練ることができます。

プラスワンプロジェクト

平成21年度より、卒業時までに就職先が決まらなかった学生に対し、専属のキャリアカウンセラーを配置し、就職行事への積極的参加など在学中同様の強力なサポートを継続しています。

大学教育の質保証に向けて、全学的なFDの推進体制を整備しています。

中期経営計画において、「丁寧な教育システムの充実」を掲げる本学は、丁寧な教育とそれに基づく教育の質保証に向け、教育改善と組織体制の構築を進めてきました。平成24年度はFD推進機構の各部会において、PDCAサイクルの着実な遂行と教育内容の充実に向け、積極的な取組を実施しました。

教育改善のPDCAを着実に遂行する組織体制を構築しています。

近年社会から各大学に対し、教育方法改善のためのセンター組織設置等の取組の組織化及び高度化、FD(Faculty Development)の総合的な推進の要請が高まっています。 このような現状を鑑み、第5次中期経営計画に沿って、福岡工業大学の教育改善に関する諸取組の企画・支援を行う組織を明確に位置付けるとともに、学長のリーダーシップによる運営を図ることにより、FD 活動をより進展させることを目的に平成22年に「FD 推進機構」を設置しました。FD 推進機構は6つの部会より構成され、教育改善の PDCAサイクルの着実な遂行体制の構築や各学科の教育内容・授業方法改善に対する支援などを実施しています。

■FD の推進体制

FD推進機構
機構長：学長

FD推進機構運営委員会
【機構長(学長)、各部会長、総務部長、学生部長】

工学部会	部会長(学部長)を中心に6名で構成。工学部各科の教育改善、講義 PDCA の着実な遂行や FD 支援を実施する他、工学部の今後の教育内容の方向性について検討しています。
情報工学部会	部会長（学部長）を中心に5名で構成。情報工学部各科の教育改善 PDCA サイクルの遂行支援や学部生の基礎学力向上施策、資格取得その他専門教育内容について検討しています。
社会環境学部会	部会長(学部長)を中心に13名で構成。社会環境学部のカリキュラムや資格取得支援施策の検討、FD 研修会などを実施しています。
大学院部会	部会長を中心に10名で構成。大学院生の基礎学力の向上施策や就業力育成施策などを検討しています。
共通教育部会	部会長を中心に8名で構成。全学共通の教養教育カリキュラム、語学教育カリキュラム、情報処理スキル育成カリキュラムなどを検討しています。
初年次教育部会	部会長を中心に6名で構成。大学生として必要な基礎学力の確立に必要な施策を検討・実施しており、入学前教育プログラムや1年生対象のフレッシュマンスクールを運営しています。

■FDの推進に向けた主な取組

FDアニュアルレポート

各学科の教育改善について、課題とその解決のための取組内容、実施状況が各部会に報告され、PDCAサイクルに基づいて着実に進展する体制を整備しており、その総括として毎年 FDアニュアルレポートを発刊しています。

学生表彰、教育業績表彰

優秀な成績を修めた学生や難関資格を取得した学生に対し、学部表彰を行い、学修意欲の向上を図る他、優れた教育業績をあげた教員に対しても表彰し、優秀事例の全学的展開を図っています。

FD研修会

定期的にFD研修会を開催し、学内外の教育改善の好事例を学び、教育改善につなげています。

授業評価アンケート

毎年2回、Webを活用して前期・後期の講義終了時に全講義の授業評価アンケートを実施し、学生の声を活用した授業改善に取り組んでいます。

入学前から初年次にかけての段階的な初年次教育プログラムによって、着実に基礎学力を向上させています。

大学入試の多様化、入学者のユニバーサル化に伴い、高校時代に大学での学問に必要な基礎学力が不十分な学生が増えています。本学では、入学前教育や1年生対象のフレッシュマンスクールなどによって、基礎学力を確立する初年次教育プログラムを充実させています。

学生個々の学習歴、学力レベルに応じた初年次教育体制を整備しています。

本学では、高校での学習歴に関わらず、大学でスムーズに専門知識が修得できるよう、推薦入試合格者に対する数学や物理などの入学前教育を実施する他、入学直後の基礎学力テストで入学者全員の学力を把握し、フレッシュマンスクールなどにおいて学力レベルに応じたプログラムを用意し、基礎学力の確立に向けて様々な取組を実施しています。このような充実したリメディアル教育体制を通じ、ここ数年1年次学生の基礎学力レベルが着実に向上しています。

■初年次教育の流れ

合格発表

入学前教育
推薦入試による合格者全員を対象に、E-Learningシステムを活用し、数学・物理などの入学前教育を実施し、高校レベルの基礎学力の確立を図っています。約370名の対象学生の90％以上が課題を解答し、真摯な姿勢で入学前準備をしています。

作文課題
入学前の3月に「5年後の私」をテーマとした作文課題を出し、5年後の自分を想像して将来の希望や目標を描き、キャリアデザインの重要性の理解を促しています。

入学

基礎学力テスト
入学後すぐに工学部・情報工学部では数学、社会環境学部は国語の基礎学力テストを実施します。また、英語においてもプレースメントテストを実施し、各々の弱点を知り、大学での学習につなげていきます。

講義開始

フレッシュマンスクール
1年生の学習面・生活面をサポートする施設で、大学での勉強に必要な「数学ベーシック」「レポーティングスキル」「ディベーティングスキル」の3つの力を週1回の課外授業で補います。また、個別指導として、学習や学生生活に対する相談などに対応します。

数量的スキル	コミュニケーションスキル	
①集合学習：週1回の授業		
数学ベーシック（数の取り扱い）	レポーティングスキル（書く力）	ディベーティングスキル（話す力）
工学部・情報工学部	社会環境学部	全学部
友達や先輩学生とグループで教え合う学習を通じて、数学の基本的な内容の理解を深め、自分で学習する力を身につけます。少人数での学習なので、分からない箇所はすぐに質問ができ、自分に合ったペースで学習を進めることができます。	いろいろなテーマに沿って自分の考えを文章にまとめる練習をします。読み手に伝えるための工夫としてポイントを提示し、身につけるための学習を行います。また、学習の基礎となる基本的な語句の力も伸ばしていきます。	自分の考えをまとめてわかりやすく発表する練習や、身近なテーマについてグループでまとめて発表を行う学習です。グループの話し合いの中で、友達の意見を理解し、話し合いの流れに沿って発言をするなどのコミュニケーション力を伸ばします。

②個別指導：学習や学生生活に対する相談・指導

2年次以降の専門科目の学習に向けた基礎学力の確立、目的意識の醸成

様々な教育改革・改善の取組みが「丁寧な教育」システムとして評価されました。

経営戦略の重点項目である、「丁寧な教育とその成果に対する質保証」を具体化するため、各学部・学科で学生に教育付加価値を付けて社会に送り出す、様々な取組が行われています。

個々の学生レベルに応じたカリキュラムと学修支援体制で、着実に専門知識と応用能力を養成しています。

■教育内容の特色

専門基礎学力、教養力の養成

数学や物理などで構成される専門基礎科目群と、人格形成の土台となる幅広い教養を身に付けるための教養教育科目群を設置し、専門科目の学修に不可欠な大学レベルの基礎学力を養成しています。チューターの活用や学習相談コーナーの開設など、きめ細かな教育で基礎力、教養力が確固たるものとなるよう、配慮しています。

習熟度別クラス分け

数学や物理などは高校での学習歴が個々の学生で異なるため、学習歴に応じたクラス分けを実施し、レベルに応じた教育体制をとっています。

チューターの活用

段階的な理解が必要となる基礎科目群では、授業に大学院生などを積極的にチューターとして活用し、授業での疑問点などをすぐに解決できるよう配慮した授業進行をしています。

学習相談体制の整備

個別指導・相談を実施するために、学習相談コーナーを新たに設置し、授業時間外でも学修上の疑問点や問題点を担当教員に相談できるようにするなど、相談しやすい体制を整えています。

基礎アカデミックスキルの養成

コンピュータスキルや語学力、日本語表現力を磨くためにスキル教育科目群を設置し、大学での学修に不可欠な基礎的なアカデミックスキルを育成します。E-Learningシステムの活用や、ノートパソコンの保有奨励など、スキル向上に向けた環境整備も併せて実施しています。

基礎情報スキルの養成

全学科で「コンピューターリテラシー」科目を設置し、学修に不可欠な基礎的な情報スキルを1年次早期に身に付けるカリキュラムにしています。

英語プレースメントテスト

1年生全員に英語プレースメントテストを実施し、入学時の英語レベルに応じたクラス分けを実施し、着実に英語力が向上するよう配慮して授業を行っています。

英語 E-Learning システム

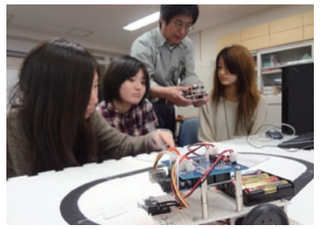
課外や自宅でも英語学習が可能となるよう、E-Learningシステムを導入し、いつでも英語に触れられる環境を整備しています。

専門学力、応用力の養成

大学卒業後、高レベルな専門知識を持って、広く社会で活躍できる人材となるよう、各学科で専門教育科目群を設置しています。1年次早期に学問への興味・関心を喚起できるよう、少人数形式のゼミや、動機付け科目を設置し、高学年次には豊富な実験・実習やフィールドワークなどを通じて知識の応用能力、創造力を身に付けていきます。

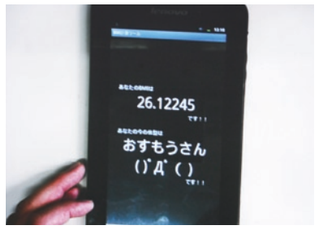
少人数ゼミナール

1年次に少人数による基礎実習や、グループワークを通じ、今後の専門科目の学修に必要となる基礎知識・スキルが着実に身に付くよう、配慮しています。



工学教育教材の活用

ロボット教材などの工学教育教材を活用し、今後学んでいくこととなる、学問理論が実際の機器類にどのように応用されているかを体感し、学修意欲の向上を図っています。



最先端の事例紹介

スマートフォンアプリ開発入門講座や、最先端分野で活躍する現役エンジニアを招いたオムニバス形式の講座などを通じ、最先端の事例に触れ、社会で活躍するための目的意識や志向力が向上するよう、配慮しています。

JABEE カリキュラム

知能機械工学科、情報通信工学科、情報システム工学科の3学科でJABEE認定を受けたコースを開設している他、他学科でもJABEE基準に基づいたコース開設を行い、世界標準のエンジニアリングデザイン教育カリキュラムを整備しています。

講義と実験の融合

最先端の設備を活用した、豊富な実験・実習科目を各学科で開設し、講義で学んだ理論を活用して、自ら計画立てて課題に取り組むことで、理論の応用能力を養成しています。

フィールドワークの活用

社会環境学科では、ISO14001認証システムを活用した環境マネジメント教育や、ビオトープ、商店街活性化プロジェクトなどのフィールドワークを活用し、実社会で活きるマネジメント能力や課題解決能力を養成しています。

他大学・行政・企業と連携し、実社会で通用性の高い教育内容へ見直しを進めています。

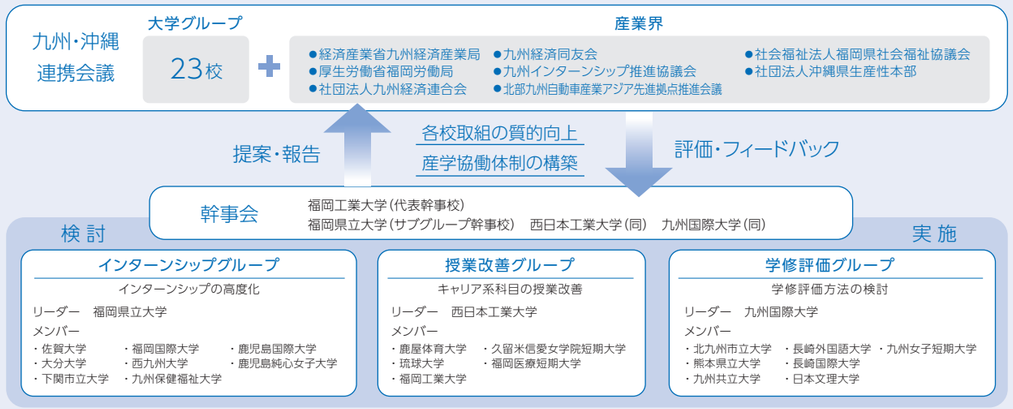
本学の就業力育成プログラムを核とした取組を他大学との連携によって発展させる3つのプロジェクトが新たに始動しました。平成24年度・文部科学省「大学改革推進等補助金」に採択され、国・地域より大きな期待を受けながら、産業界のニーズに応える有用な人材の輩出に向けて、教育内容を充実させていきます。

地域の中核となる職業人育成拠点を目指し、キャリア関連教育内容を他大学と連携して発展させていきます。

本学が参加する3つのプロジェクトが平成24年度・文部科学省の大学改革推進等補助金に採択されました。本学は平成22年度より学生の就業力育成に向けた教育プログラムを発展・充実させており、今後は様々な大学や産業界と一層連携し、地域の発展に貢献する人材育成に向けた取組を発展させていきます。

■地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト

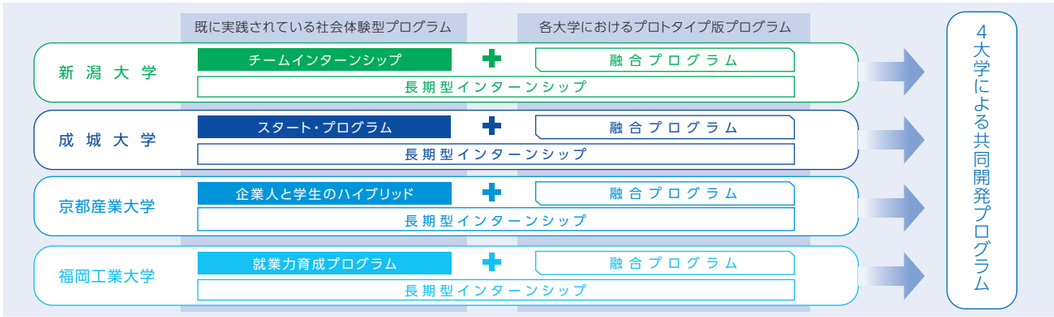
本プロジェクトは、本学を主幹事校とし、九州・沖縄・山口の23国公私立大学・短大と九州産業界8団体が連携し、産業界の人材ニーズに適合的な大学教育を考え、実践していく事業です。



■産学協働による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成

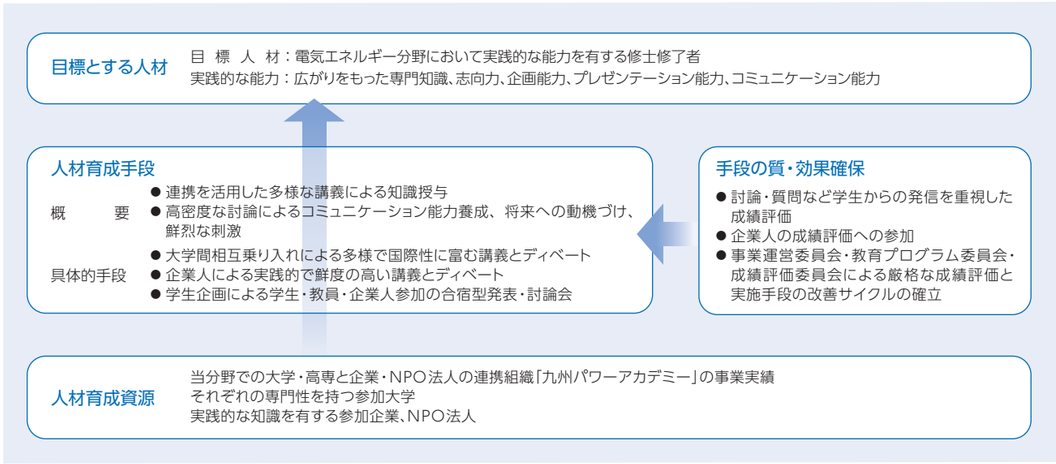
本プロジェクトは、京都産業大学を代表校とし、新潟大学、成城大学と本学の4校が連携して、「産学協働教育」を始点として学士課程教育の質的転換を図り、「地域社会の発展を担う中核的・中堅職業人」を育成・輩出することを目的とする事業です。

●産学協働教育プログラム開発のステップ



■未来像を自ら描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成

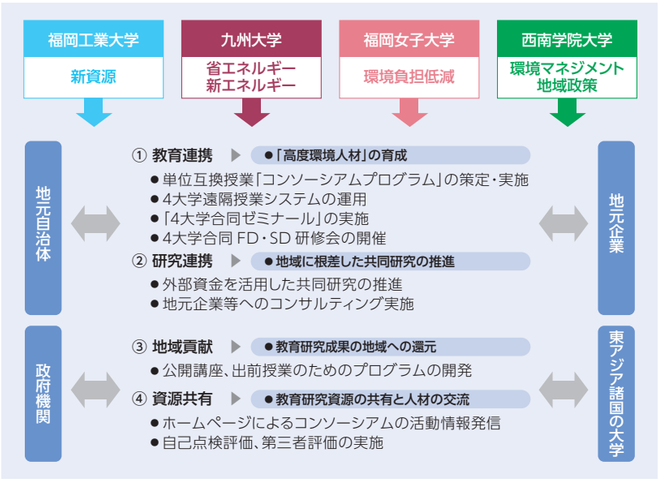
本プロジェクトは、九州大学を代表校とし、九州工業大学、熊本大学、福岡大学と本学の5校の大学院が連携し、電気エネルギー分野の修士課程学生を対象に、大学と産業界の連携によって、志向力、コミュニケーション能力を持って活躍できる人材の育成を目指すプロジェクトです。



第2フェーズの中間年を迎えた国公立私立大コンソーシアム福岡は、「教育連携」「地域貢献」を中心とした活動に取り組むとともに、プログラムの高度化に向けた検討を重ねました。

平成20年に九州大学、福岡女子大学、西南学院大学と本学が連携して結成された「国公私立大コンソーシアム・福岡」は、自律的運営に移行して2年目を迎えるにあたり、地元福岡で有為に活躍する「高度環境人材」の育成と、4大学の教育・研究資源の還元による「地（知）の拠点」となることを目標に、「教育連携」「地域貢献」に重点を置いた活動を展開しました。また「コンソーシアムプログラム高度化検討委員会」を立ち上げ、引き続き4大学による連携の維持とプログラム内容の高度化を目指した報告書を作成しました。

●コンソーシアム・福岡の概要



平成24年度の主な取組

教育連携
- 単位互換授業「コンソーシアムプログラム」30科目を開講
- 東京サテライトからの5回の「特別授業」を実施
- 大学院生対象就職支援セミナー「修士の就活」開催
- 学外合宿研修「4大学合同ゼミナール」の実施
- 4大学教職員による FD-SD 研修会

研究連携
- 国内外の8大学・機関との共催で環境に関する国際会議を開催

地域貢献
- 4大学による公開講座を実施
- 地元高校生を対象とした出前授業を実施

資源共有
- 4大学総長・学長による「戦略会議」開催
- 地元有識者による第三者評価「アドバイザリーボードミーティング」開催
- 「コンソーシアムプログラム高度化検討委員会」がスタート

国際交流ネットワークを活かして教育プログラムを拡大し、グローバル人材育成を推進しています。

本学は6カ国14大学と学術交流・学生交換協定を結び、協定校とのネットワークを活かしたユニークな国際教育プログラムを展開しています。カリフォルニア州立大学イーストベイ校との日米共同教育プログラムをはじめ、日本学生支援機構の平成24年度留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）にアメリカ、タイ、中国の3協定校との教育プログラムが採択され、グローバル人材育成へ向けて国際教育を推進しています。

6ヶ国14大学と国際交流ネットワークを構築し、緊密な交流を展開しています。

■国際交流ネットワーク

本学は6ヶ国14大学と交流協定を締結し、教育・研究の国際化、高度化を進めています。教職員向けにも米国大学における人事研修を実施しており、国際通用性を持つ学生・教職員の育成へ向けて緊密な交流を展開しています。

■JUNBA

JUNBAとは「サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク」の略称で、米国内に拠点を持つ日本の大学間の連携ネットワークです。本学は平成22年に加盟し、本学の国際化、国際的な人材育成に資するネットワークの拡大・深化を図っています。

JUNBAの主な加盟大学・機関

大阪大学、桜美林大学、鹿児島大学、九州大学、東京工業大学、東京理科大学、東北大学、福岡工業大学、横浜市立大学、早稲田大学、日本学術振興会

日本学生支援機構の留学生交流支援制度に3つの教育プログラムが採択されるなど、教育国際化が進展しました。

日米学長協同型教育プログラム

トップクラス学生を対象としたグローバル人材育成プログラムで、米国の協定校カリフォルニア州立大学イーストベイ校との連携により、両大学選抜の学生がお互いのキャンパスを10日間ずつ訪問し、日米学生間のディスカッションや、国際的に活躍する著名人による特別セミナー、そして両国の文化体験などを通じて、主体的に考える力、行動する力と幅広い職業観・人生観を培うものです。平成24年度は各学科から推薦、選抜された10名の学生が参加しました。

南京理工大学との大学院ダブルディグリー受け入れのための教育プログラム

大学院でのダブルディグリー制度のある南京理工大学との共同教育プログラム。本プログラムでは、南京理工大学大学院生から学生を選抜し、日本語の集中講義はもとより茶道、華道、柔道等の文化・スポーツ体験、工場見学、さらに本学の各研究室での1週間に亘るインターンシップを経験します。インターンシップを経験することにより、学生は本学進学前に教員の研究内容について把握し、自分の希望する分野に一致する教員の研究室を志願することができます。そして将来、本学大学院進学の際に、より高度な研究をし、日本人学生と優秀な留学生との協働教育で本学の人材育成レベルを大きく向上することを目的としています。

大学院修士課程留学支援のためのKMITL−FITプログラム

本学協定校であるタイ・キングモンクット工科大学の工学部及び産業教育学部日本語学科から留学生を受入れ、各学部に特化した短期研修プログラムを実施しました。研修を通じて本学への関心を惹起させるとともに、本学大学院修士課程への正規進学を促し、グローバル化に資する大学院候補生を養成しました。工学部プログラムは、実践的演習として PBL(Project Based Learning)型教育によりプログラミング基礎を習得すること、産業教育学部については日本人学生との積極的交流やインターンシップ参加により、日本語能力向上及び日本事情への理解を深めることを目標に、20名の留学生が研修プログラムに臨みました。

国際交流愛好会(FIT-ICE)発足

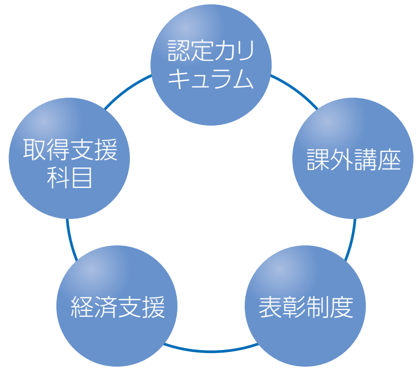
留学生との交流を通して日本人学生の世界観を広げようと、新規サークル「FIT-ICE（国際交流愛好会）」が発足しました。ICE (International Cultural Exchange) は国際交流に興味がある学生なら誰でも参加可能で、60 人以上が在籍しています。活動内容は、留学生との交流イベントの企画・運営、短期留学生への各種サポート、留学経験者である先輩による英語レッスンなど様々で、キャンパスの国際化、交流の深化に貢献しています。

正課カリキュラムと課外講座の双方から、学生の資格取得をバックアップしています。

本学では資格取得に有利なカリキュラムを編成するとともに、課外でもエクステンションセンターや各学部・学科独自で資格取得支援講座を開講し、学生の資格取得をバックアップしています。また、創設２年目となる難関資格合格者への表彰制度により資格取得を一層奨励しました。

各学部・学科とエクステンションセンターの支援により、正課・課外の枠を超えて資格取得をサポートしています。

各学科で資格取得の認定を受けた正課内のカリキュラムや、課外特別講座、難関資格取得に対する学生表彰制度やエクステンションセンターでの各種講座など、多面的な支援を実施し、資格取得へのチャレンジを積極的に促しています。このような支援の下、情報、通信、電気系資格を中心に例年多数の合格者を輩出しています。➡ **合格実績はP54へ**



認定カリキュラム

各学科の教育目標に則し、教育上有用と判断した資格については、正課カリキュラムを資格取得要件に対応させ、所轄団体の認可を受けて資格取得認定校として積極的に取得支援をしています。

- 技術士（補）（JABEE認定）…… 知能機械工学科、情報通信工学科、情報システム工学科
- 電気主任技術者 …… 電気工学科
- 食品衛生管理者、食品衛生監視員、毒物劇物取扱責任者 …… 生命環境科学科
- 第一級陸上特殊無線技士、第一級陸上無線技術士、第三級海上特殊無線技士 …… 情報通信工学科
- 電気通信主任技術者、ネットワーク接続技術者 …… 情報通信工学科
- 高校・中学校教諭 …… 全学科

資格取得支援科目

各学科の教育内容との関連性が高く、かつ、卒業後のキャリア形成に有用な資格については、資格取得に必要な学習内容を授業内容に反映させ、単位取得と資格取得が両立しやすいよう、支援科目の整備を進めています。支援資格を年々充実させており、9学科で延べ25資格に支援科目を設置しています。

主な支援資格
第一級陸上特殊無線技士、機械保全技能士検定、CAD利用技術者、機械設計技術者、電気工事士、公害防止管理者、環境計量士、環境測定分析士、バイオ技術認定、基本情報技術者、LPIC、CCNA、環境社会検定　など

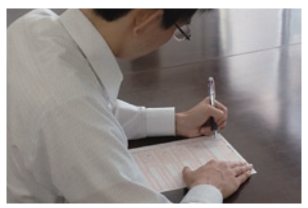
課外講座

資格試験合格に直結する学習を補完するために、試験対策講座をエクステンションセンター及び各学科で講師を招き、対策講座を課外で開講しています。講師は専門学校等で高い実績をあげているプロ講師で、試験に合格できるノウハウを集中講座で効率よく身に付けていきます。

主な開講講座
TOEIC、MOS、ITパスポート、基本情報技術者、日商簿記、秘書検定、公務員試験　など

経済支援

各種開設している課外講座では、無料、もしくは市価の5分の1から2分の1程度の受講料に抑え、経済面からも資格取得をバックアップしています。このような無料、低価格講座は40以上におよび、年々充実させています。



表彰制度

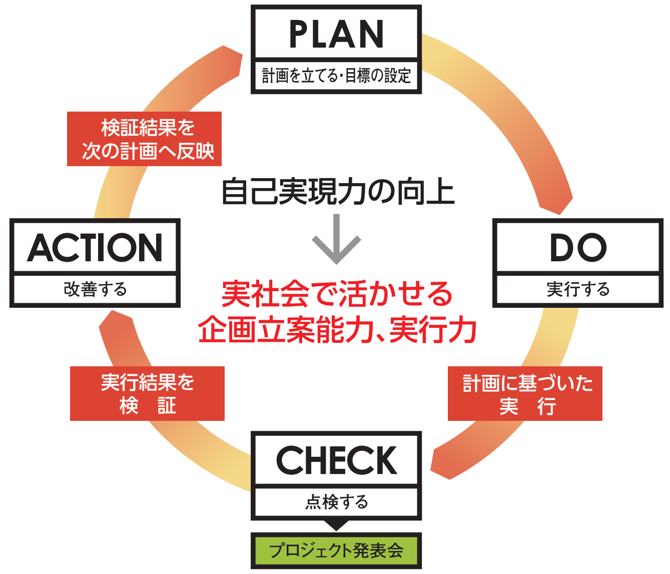
積極的な資格試験へのチャレンジを促すため、各学部で難関資格合格者に対し、表彰制度を設けています。平成24年度は200名以上の学生を表彰し、他の追随を促しています。

学生の主体的なプロジェクト活動を通して、創造力、企画立案能力、実行力を育成しています。

モノづくりセンターでは、教育方法の多様化に対応し、モノづくり教育を推進することで学生の創造力を養成しています。また、プロジェクト活動の基本となるPDCAサイクルは、社会人として活躍していく上で必要な企画立案能力、実行力などの育成に繋がっています。

学生主体の課外プロジェクト活動を通じて、PDCAサイクルを体得する環境を整備しています。

モノづくりセンターの活動は、学生自らが計画を立て、予算を出し、役割分担に沿って実行し、活動が終われば報告を行い、結果検証して次の計画へ繋げるというPDCAサイクルで運営されています。本学では課外活動を通じて、社会人として活躍していく上で大切な企画立案・実行能力を体得してもらうため、課外活動を重要な教育の場として環境整備しています。



■活動実績

モノづくりセンターは学生の創造力育成拠点であり、学生自ら目標に向かってプロジェクトを運営しています。このような学生のプロジェクト活動を支援するため、専門職員を配置するなど、技術面、財政面から活動を支援しています。平成24年度は8つのプロジェクトに約130名の学生が参加しました。

平成24年度主な大会出場実績
RoboCupジャパンオープン2012
NHK大学ロボコン2012
DREAM CUPソーラーカーレース鈴鹿2012
第24回全日本ロボット相撲大会 中国地区大会
フクオカ・サイエンスマンス二足歩行ロボットバトル大会
姫路ロボチャレンジ第15回大会

▲ロボコンプロジェクト

▲ソーラーカープロジェクト

プロジェクト一覧　電気自動車　ソーラーカー　ロボコン　ロボカップ　ロボット相撲　手作りアクセサリー　ビオトープ　二足歩行ロボット

学生一人ひとりに対応したきめ細かい支援体制で、学生生活をサポートしています。

“For all the students” を経営理念に掲げる本学では、クラス担任制度や新入生全員面談など教職員による日常的な学習・生活相談から、臨床心理士・カウンセラーによる専門的見地からの学生相談まで、学生一人ひとりを把握した上で、状況に応じた多様な支援をしています。

教職員や学生同士による日常的な修学支援から、専門家による相談体制まで、学生の状況に応じた支援体制を充実させています。

日常的学生支援

新入生に対しては、5年前から実施している新入生全員面談や、入学前後に2度行うオリエンテーションで、高校からの生活変化に円滑に移行できるよう配慮しています。多欠席や単位取得不足傾向の在学生に対しては、学生サービスセンターの職員が学生と面談を行い、各学科の教員と連携して修学指導にあたっています。また、女子学生や留学生のコミュニティ構築なども積極的に支援しています。

日常的修学支援

クラス担任制度やオフィスアワーを導入し、学習上の疑問点や悩みなどにきめ細かく対応できる体制を整備しています。また、学習理解が促進されるよう、各学科で TA（ティーチングアシスタント）、SA（スチューデントアシスタント）、チューターを積極的に活用し、講義の疑問点があればすぐに解消されるよう、学生同士でも相談しやすい環境を整備しています。

専門的学生支援

実績豊富な臨床心理士2名、キャリアカウンセラー2名を配置し、日常生活で困難に陥った学生に対し、専門家による相談体制を整備しています。人間関係・家庭・就職など、学生の多様な悩みに専門家の見地を活かした対応をしています。

クラブ・サークル活動を活性化させるため、施設・設備のハード面から、また、リーダー育成・技術指導などのソフト面から多面的な支援を行いました。

クラブ・サークル活動は、学生相互の切磋琢磨を通して貴重な人間関係を築き、社会性や自律性を身に付け情操豊かな人間性を育む場であると本学では考え、活性化に向けて、財政支援や施設設備などの多面的な支援をしています。

学生の社会性や自律性を育み、人間形成を促す場として、クラブ・サークル活動の多面的な支援を展開しました。

人間性教育

クラブ・サークル活動において、社会との積極的な関わりを持つことは人間性を高める上で有益だと考え、毎年、クラブ・サークル部員を中心に、ラブアースクリーン福岡での海岸清掃活動や地域の夏祭り、もちつき大会などに参加し、地域貢献活動を通じた社会性、人間性向上に努めています。

財政支援

昨今の厳しい経済情勢により経済的問題を抱え、クラブ・サークル活動を断念せざるを得ない学生が増加する傾向にあります。平成22年度より新規サークル設立時や学外施設利用時の補助制度を創設し、クラブ・サークル活動の活性化を図っています。

優秀者表彰

クラブ・サークル活動をはじめ、各方面で活躍している学生に一人でも多く光をあて、学長自ら激励してやる気を醸成するとともに、他の学生への良い刺激となることを期待して学生表彰（団体・個人）の制度を設けています。

施設設備

平成24年8月、課外教育における人間性の陶冶を目的に、課外教育・研修施設 FIT セミナーハウスを湯布院に設置しました。
また、平成23年度末には野球場・多目的グラウンドからなる塩浜総合グラウンドが完成しており、クラブ・サークル活性化へ向けて、施設設備の整備・拡充を進めています。

全学生の希望進路の実現を目指す「進路保証プログラム」が確実に成果をあげています。

進路保証プログラムの第2期生が卒業した平成24年度の進路決定率は88.1%となり、第1期生が卒業した平成23年度より6.8%アップと大幅に向上しました。

学生一人ひとりの希望に適う進路実現に向けて、入学前から卒業後まで一貫した教育プログラムを整備しています。

平成22年度より本格始動した進路保証プログラムが3年目を迎え、学長の強力なリーダーシップの下プログラムを推進しました。本プログラムは、学生一人ひとりの教育・学生生活に深く関わり、確実に「学力」「意欲」「社会性」を向上させ、「目指す進路を実現する」ことを目的に、2年間の進路別学習プログラムを実施するものです。2年間で目標到達が実現しなかった場合は、無償で再教育を行い、進路支援を保証する取組です。

■進路保証プログラムの概要

入学前教育

入学

在学中の2年間

基盤教育（共通）

新入生の把握

入学時に学力等調査や個人面談を実施する。学生の学力、コミュニケーション能力を把握し、個人差を考慮した教育プログラムを実施する。

実施項目
- 個人面談
- 学力テスト
- 意識調査
- 行動調査

人格形成プログラム・意欲向上プログラム・高校補完教育プログラム

社会人として責任ある行動をとるために心得ていなければならないルールの遵守や挨拶、言葉づかいなどの基本マナーを身に付けた学生を育てる。学力などの調査および個人面談をとおして学生の特徴を把握し、学生個々の特性に応じた目標を設定させ、習熟度に応じた基礎学力の再教育を実施する。

- 社会人としての挨拶や言葉づかいなどのマナー、エチケットを身に付ける
- 目標をもった学生生活を送る　●基礎学力の再教育

専門基礎教育プログラム

進路希望別プログラム

編入学教育プログラム

- FIT工学部プログラム
- FIT情報工学部プログラム
- FIT社会環境学部プログラム
- 国公立大学プログラム
- その他私立大学プログラム

目標とする進路
- 福岡工業大学　工学部・情報工学部・社会環境学部
- 国公立大学　●その他私立大学

育成する人材
- 基礎と幅広い技術を学び、さまざまな場面に応用できるスキルを修得するとともに、大学教育を理解できる素養を身に付けた人材
- さまざまな問題を自分自身で考え、その実践的解決能力を備えた人材

就職活動教育プログラム

- ビジネス系プログラム
- メディア系プログラム
- IT系プログラム

目標とする進路
- 金融機関　●IT・メディア関連企業
- 医療機関　●製造業関連　など

育成する人材
- 新しい知識や技術の活用により、企業や医療・福祉分野で実践的な業務を行える人材
- 幅広い知識・感性に裏打ちされた創造性豊かなデザイン力を身に付けた人材
- 技術者として幅広い知識、技術を身に付け実践的な業務を行える人材

卒業

卒業後の1年間

進路未決定者教育プログラム（無償）

進路未決定者の要因分析

- 本学の支援プログラムを受講可能。
- プロジェクト学習の学び直しが可能。
- 在学生と同様の演習室、キャリア支援室、図書館などの全施設設備が利用可能。

編入学教育プログラム
- 福岡工業大学　工学部・情報工学部・社会環境学部
- 国公立大学　●その他私立大学

就職活動支援プログラム
- 進路相談課による就職斡旋
- 資格取得対策講座の開講
- SPI試験対策講座の開講
- 面接の指導・訓練
- 履歴書・エントリーシートの添削
- 遠方交通費支援など

■編入学教育プログラム

平成24年度編入学合格者は、九州工業大学2名、鹿児島大学1名、佐賀大学1名、福岡工業大学35名、その他大学17名の延べ53名でした。

惜しくも編入学が実現しなかった学生は、これから1年間、特別科目等履修生として新たな気持ちで、編入学支援プログラムを受講し再チャレンジします。

■ 4年生大学への編入学実績の推移

	H21	H22	H23	H24
編入希望者	48	52	58	54
編入合格者数	48	51	54	53
編入合格率	100%	98.1%	93.1%	98.1%

編入学教育プログラム

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
FIT工学部プログラム	基礎講座	編入対策講座（学科毎）	科目等履修生 / 直前対策講座（学科毎）	弱点強化講座
FIT情報工学部プログラム	基礎講座	編入対策講座（学科毎）	科目等履修生 / 直前対策講座（学科毎）	弱点強化講座
FIT社会環境学部プログラム	基礎講座	編入対策講座（国語）	科目等履修生 / 直前対策講座（小論文）	弱点強化講座、直前対策講座
国公立大学プログラム	基礎講座（物理・数学）	編入対策講座（英語・数学・物理・専門）		弱点強化講座
その他私立大学プログラム	基礎講座	志望校選択ガイダンス	直前対策講座（志望校毎）	

■就職活動教育プログラム

平成24年度の就職状況は、一昨年度より回復基調にあるものの依然厳しい雇用情勢の中、昨年度同様、良好な結果（内定率97.3%　72名）となりました。キャリア支援室を中心とした、きめ細やかな個別指導が奏功してます。

■ 就職実績の推移

	H21	H22	H23	H24
就職希望者	43	39	71	74
就職者数	39	37	69	72
内定率	90.7%	94.9%	97.2%	97.3%

就職活動教育プログラム

	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
ビジネス系プログラム	業界研究	履歴書添削・面接の指導 / 能力適性検査（SPI）対策	検定対策講座	卒業研究
	日商PC検定取得（文書作成）（データ活用）	簿記検定取得、秘書検定取得	ITパスポート取得、福祉住環境コーディネータ取得	
メディア系プログラム	業界研究	履歴書添削・面接の指導 / 能力適性検査（SPI）対策	検定対策講座	卒業研究
	日商PC検定取得（文書作成）（データ活用）	建築CAD検定取得	CGエンジニア検定取得、マルチメディア検定取得	
IT系プログラム	業界研究	履歴書添削・面接の指導 / 能力適性検査（SPI）対策	検定対策講座	卒業研究
	日商PC検定取得（文書作成）（データ活用）	ITパスポート取得	基本情報技術者取得	

希望進路に直結した「プロジェクト学習」を徹底活用することにより、実践的スキル・知識が身に付いています。

希望進路に沿った科目を選択ができる「プロジェクト学習」。講義と演習を通して、進路に合わせた実践的な知識が身に付くだけでなく、自分の将来を熟慮するきっかけにもなっています。

卒業後の進路に直結したカリキュラム構成で、実務能力の高い人材育成を図っています。

「プロジェクト学習」は将来の目標を見据えた科目を選択する制度で、どの学科に所属していても他学科の科目も含め、選択プロジェクトに沿って履修することができます。本学では教育内容と実社会で求められる知識・技術との間に乖離が生じないよう、社会動向を見据えたカリキュラム構成にしています。

■プロジェクト学習の概要

	〈プロジェクト学習名〉	〈目指す就職先・職種〉		〈対応する編入先〉
1	ビジネスプランニング	一般企業、金融機関、小売、流通業 など	一般事務／営業・販売など	経営系学部
2	ネットショップ	一般企業 など	Webクリエイター／営業・販売など	経営系、情報系学部
3	Webデザイン	Web制作会社、印刷、出版会社 など	Webクリエイター／CGクリエイター／グラフィックデザイナーなど	情報・メディア系学部
4	CG・映像・サウンド	映像制作会社、印刷、出版会社 など	映像クリエイター／CGクリエイター／グラフィックデザイナーなど	
5	インテリア・CAD	建築業、製造業 など	プランナー／CADオペレーター／営業・販売など	工学系、建築系学部
6	情報福祉	医療機関、福祉施設 など	医療事務／福祉住環境コーディネーターなど	医療・福祉系学部
7	ITエンジニア	ソフトウェア開発会社 など	ネットワークエンジニア／システムエンジニア／プログラマーなど	情報系学部
8	Webプログラミング	ソフトウェア開発会社 など	システムエンジニア／プログラマー／ネットワークエンジニアなど	
9	デジタルゲーム	ソフトウェア開発会社 など	プログラマー／ゲームクリエイターなど	
10	ロボット	製造業 など	ハードウェア技術者／カスタマーエンジニア／セールスエンジニア	工学系学部

● プロジェクト学習の成果と取組

CG コンテスト

短大のCG教育の一環として、日頃勉強したCG作成技術を披露するために毎年開催しています。静止画やアニメーション等、多数の作品が寄せられ、審査の結果12名が入賞し（優秀賞2名、奨励賞5名、入賞5名）、学長より表彰されました。

グローバルゲームジャム参加

世界48ヶ国におよぶプロ、アマチュア11,000名が集うグローバルゲームジャムに、本学の2名の学生が参加し、ゲーム制作の技術を披露しました。本学学生が所属するチームが賞を受賞するなど、プロジェクト学習で学んだ技術を大いに発揮しました。

「総合学ゲー展」へ出展

プロジェクト学習のデジタルコースとCG・映像・サウンドコースで学んでいる学生が制作した3つのゲームを展示しました。子供たちの興味を惹きつけ、大いに会場を盛り上げました。

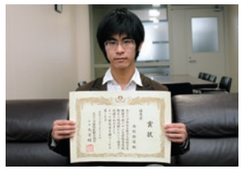
ハード、ソフト、経済面からの多面的なサポートを通じて修学意欲を向上させています。

実務能力養成のための「プロジェクト学習」に加え、教養力や人間性を高めるための様々な学習支援策を実施し、修学意欲、就業意欲の向上を図っています。

多様な学生ニーズに対応するため、きめ細やかで幅広い学習支援策を講じ、修学意欲、就業意欲の向上につなげています。

入学前教育による基礎学力の底上げ

高校レベルの基礎学力を確立して初めて短大にて大きな学びを得ることができます。本学では、入学前から個々の学生に合った基礎学力向上策を実施し、短大における学修成果の向上に努めています。



資格取得支援

資格取得支援制度の拡充に伴い、検定試験合格率116.5%（検定試験合格者数439名÷在学生377名）となり、一人で複数の検定試験に挑戦し、合格する学生が増えてきました。翌年度以降も積極的に支援を行い、学生の将来を補完できる取得支援制度へと改善していきます。

カリフォルニア州立大学イーストベイ校で英語研修を実施

本学の協定校、米国カリフォルニア州立大学イーストベイ校にて「夏季英語集中講座」を実施しました。約3週間のプログラムで、英語だけではなく、ホームステイを通して現地の文化を体験することで異文化への理解を深めました。

Face to Face の学習・生活相談

平成23年度に進路相談室を開設し専門職員を常駐させるなど、学生支援体制の拡充を図っています。また、教養ゼミでは、教員だけなく職員も参加し、教職員一体となって入学から卒業まで責任を持って学生と向き合っています。

充実した奨学金制度・女子寮寮費免除

授業料免除をはじめ、様々な独自奨学制度を用意し学生が安心して勉学に集中できる体制を整備しています。また、遠方からの女子学生には、最大79.2万円が免除となる寮費免除奨学制度を整え、向学心の高い学生を強力にサポートしています。

地域社会と一体となって学生教育と地域活性化に取り組んでいます。

大学の様々な資源を活用し、地域貢献を果たすことが大学の重要な役割の一つとして認識され、積極的な取組が求められています。本学では保有する様々な物的・知的資産を活用し、地域住民と一体となった活動を展開し、学生教育の充実と地域活性化を図っています。

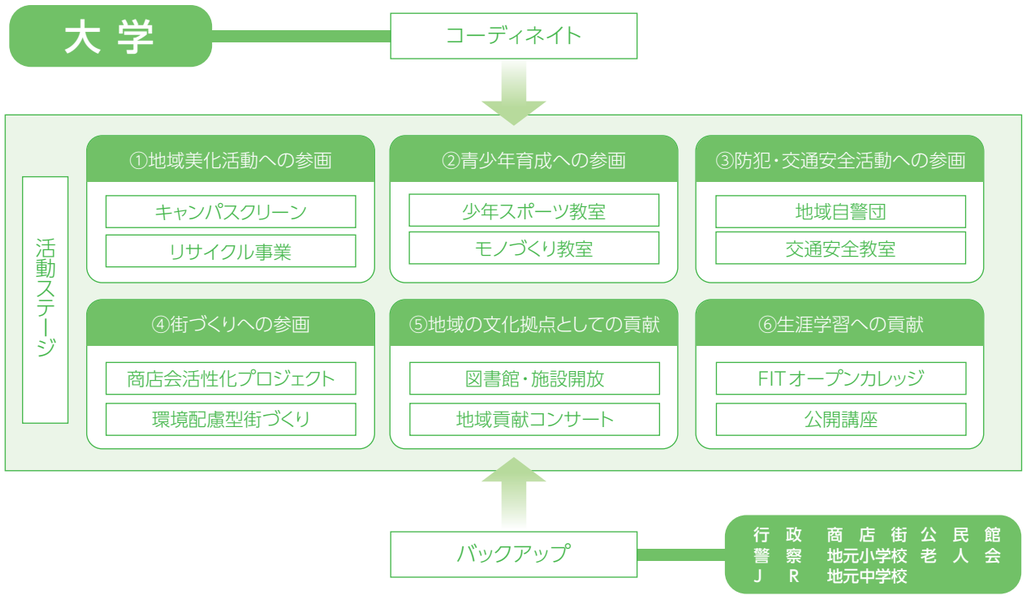
「キャンパスサミット」を核として、社会活動の領域を拡大し、学生の人間力向上を図っています。

本学では、地域の皆様と協力して、様々な地域貢献活動を実施し、それらを学生の社会性教育のステージとして活用することで、社会性教育と地域活性化を両立させるよう取り組んできました。これら諸活動は、平成9年に本学と近隣町内会、福岡市東区役所、東警察署、JR福工大前駅関係者及び学生自治会などで構成される会議体「キャンパスサミット」が中核となっており、関係者一同の協力の下、ボランティア活動や青少年育成など、幅広い活動を実施しています。

■キャンパスサミット

本学と地域の町内会長、JR、区役所、警察、学生自治会で構成される会議体で、平成9年に設置されました。ボランティア活動や青少年育成活動など、学生教育と地域活性化に向けた様々な取組が協議され、地域貢献活動の中核として、大きな役割を果たしています。

● キャンパスサミットを核とした地域貢献活動の領域



● 地域貢献活動の主な取組

①地域美化活動への参画

毎月第3水曜日を「キャンパスクリーンデイ」として、学生・教職員・地域住民の皆様が一体となって清掃活動を実施しています。また、福岡市が主催する「ラブアース・クリーンアップ」活動にも多くの学生が参加し、海岸などの清掃活動に従事するなど、地域美化活動に積極的に取り組んでいます。この他、地域のリサイクル拠点として「エコステーション」を設置し、資源ゴミのリサイクルに取り組んでいます。

②青少年育成への参画

スポーツを通じた「挨拶・礼節・協調・体育」を目的に、平成12年より、地域の少年少女を対象とした少年野球教室などを実施しています。平成15年より中学生を対象とした中学部も開設し、複数の校区から多くのこども達が集い、汗を流しています。また、毎年夏休みに小中学生を対象に「夏休み親子体験教室」を開催するなど、科学技術を支える工学分野の裾野拡大に向けた取組も実施しています。

③防犯・交通安全活動への参画

平成22年に学生防犯ボランティア団体の「福岡工業大学コミュニティパトロール隊」を発足し、月に一度の地域定例パトロールの他、博多や天神周辺で防犯の呼びかけを実施するなど、積極的に活動しています。

④街づくりへの参画

平成21年より「福工大前商店会活性化プロジェクト」を発足し、社会環境学部の学生を中心に、商店会加盟店を紹介するポスターを作成するなど、商店会活性化に向けた活動を実施してきました。平成24年より新たに「緑のカーテンづくり」を開始し、省エネや景観など、環境に配慮した街づくりに向けて、地域の皆様と協力しながら活動を進めていきます。

⑤地域の文化拠点としての貢献

図書館などの施設を一般開放し、大学の施設を地域の皆様に積極的に活用していただいています。また、毎年12月に世界的に有名なジャズミュージシャン・MALTA さんらをお招きしたコンサートを開催し、地域の皆様を招待するなど、地域の文化拠点としての役割を拡大させています。

⑥生涯学習への貢献

近年の社会・経済の急激な変化に伴い、幅広い年齢層の人々が新たに学ぶ意欲が高まっており、生涯学習拠点としての役割を果たすよう、大学に対する社会的なニーズが高まっています。本学ではエクステンションセンターにおいて、情報関連講座や語学関連講座、文化教養講座など、300以上の講座を開講するなど、生涯学習拠点としての機能拡大を図っています。

情報・環境・モノづくりの意志・知識・技術を育み、それらの土台となる人間形成に貢献する、教育ファシリティを整備しています。

情報・環境・モノづくり領域で、広く社会に貢献できる人材を育成するために、環境革新時代・高度情報化社会に対応した施設・設備を充実させています。

人間力育成を主目的として学外研修施設（FITセミナーハウス）を整備しました。

「学生・生徒・教職員が共に集い、共に学び、実社会で通用性の高い人間性と知性を磨き高めることを願う。」ことを精神として九州の避暑地として名高い由布高原（湯布院町）にセミナーハウスを整備しました。本セミナーハウスは学生・生徒・教職員のみならず、本学の運営にご支援をいただく企業・地域の皆様にもご利用いただけます。

▲テラスから見た“くじゅう連山”

▲外観

▲セミナールーム

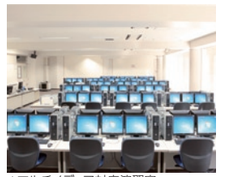
▲遊歩道

「秒進分歩」で進歩する科学技術に対応するべく、常に教育設備のアップデートに努めています。

科学技術は目覚ましいスピードで進歩しており、「秒進分歩」とまで言われています。本学では、時代に応じた教育基盤を整備するために、限られた予算のなかで優先順位をつけて、安定的に着実な投資を行っております。平成24年度は、モノづくりに欠かせない、高精度部品を短時間で制作できるNC旋盤や、CAMシステムのバージョンアップ、3次元CAD、MATLABを用いて、立体構造の制御シミュレーションを可能にする環境を整備しました。

■主な整備事業

少人数IT教育の設備改善
教育研究のマルチメディア化推進
情報工学実験における機材・設備の更新
PCマルチ教室のパソコン設備導入
電圧発生装置操作盤の更新　など


▲マルチメディア対応演習室

▲最新の情報実験設備

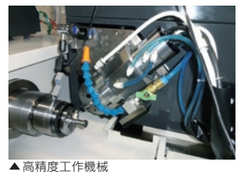
▲ソーラーパネル

▲高効率照明器具

▲節水型トイレ

▲NCフライス盤

▲工作学習施設


▲高精度工作機械

太陽光パネル設置
高効率型変圧器・照明器具への更新
エネルギー効率の高い空調・熱源への更新
トイレ衛生器具節水型器具への更新
A棟バリアフリー化　など

CAE教室の設備更新
3次元CAD教育設備導入
NC旋盤、NCフライス盤、計測機器、溶接機器の導入　など

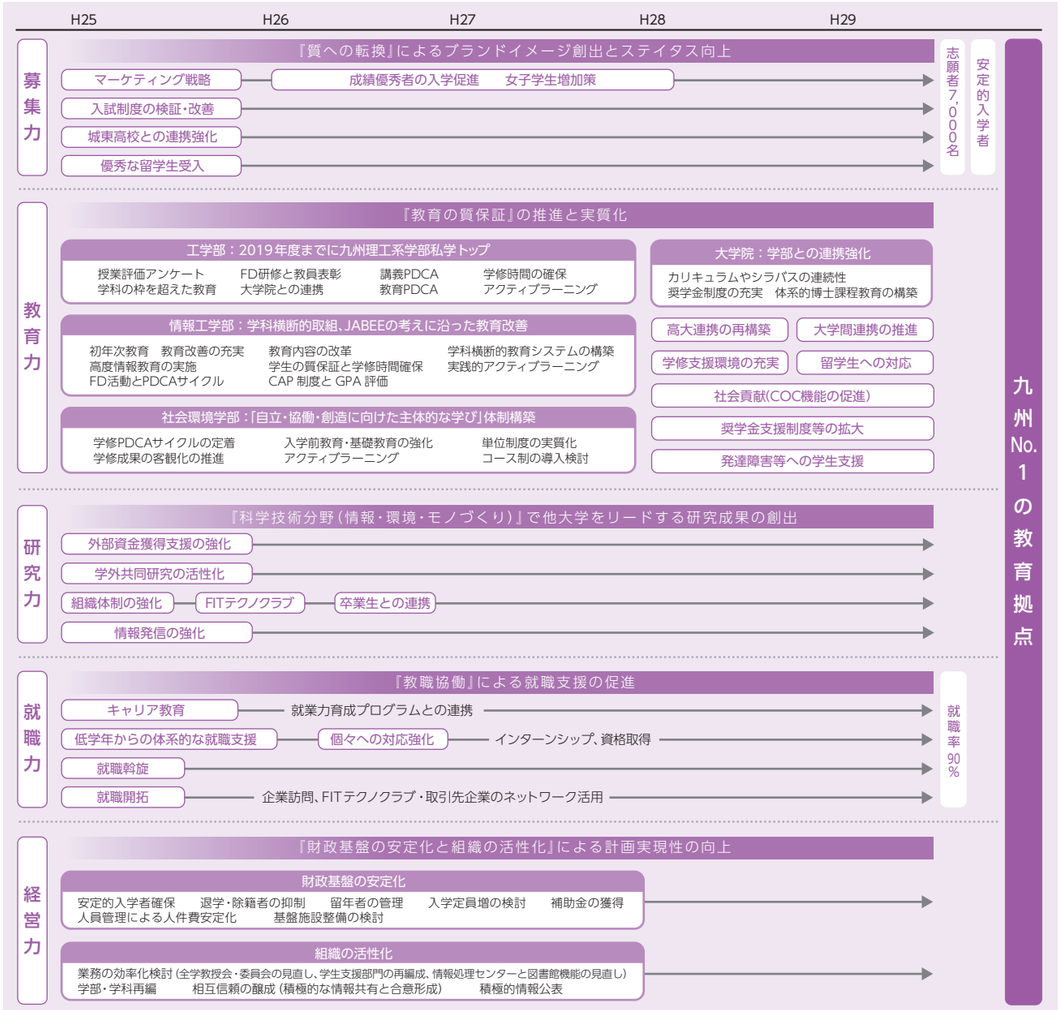
学園全体の質を高めるために第６次マスタープランを策定し、計画実現性を支える経営管理システムを見直し、強化しました。

平成25年度よりスタートする第6次中期経営計画（マスタープラン）の策定に向け、学園全体の質を一段と高めることを目的に議論を進めました。策定した経営計画の実現性を高める経営管理システムの強化も引き続き進め、「九州 No.1の教育拠点」を目指し、成果の創出を図っていきます。

「質への転換」を目指し、第６次中期経営計画（マスタープラン）を策定しました。

平成24年度は、平成25年度よりスタートする新中期経営計画（第6次マスタープラン）の策定を進めました。約半年に及ぶ策定過程において、平成22年度から平成24年度までの第5次期間中の総括がなされ、それを土台として、第6次では『質への転換』を図り、学園のステータスを向上させることをテーマとして掲げ、議論が進められました。「九州 No.1 の教育拠点」を目指し、新たな経営計画の下、教職員一同取り組んでまいります。

■第6次中期経営計画（マスタープラン）における取組計画の全体像



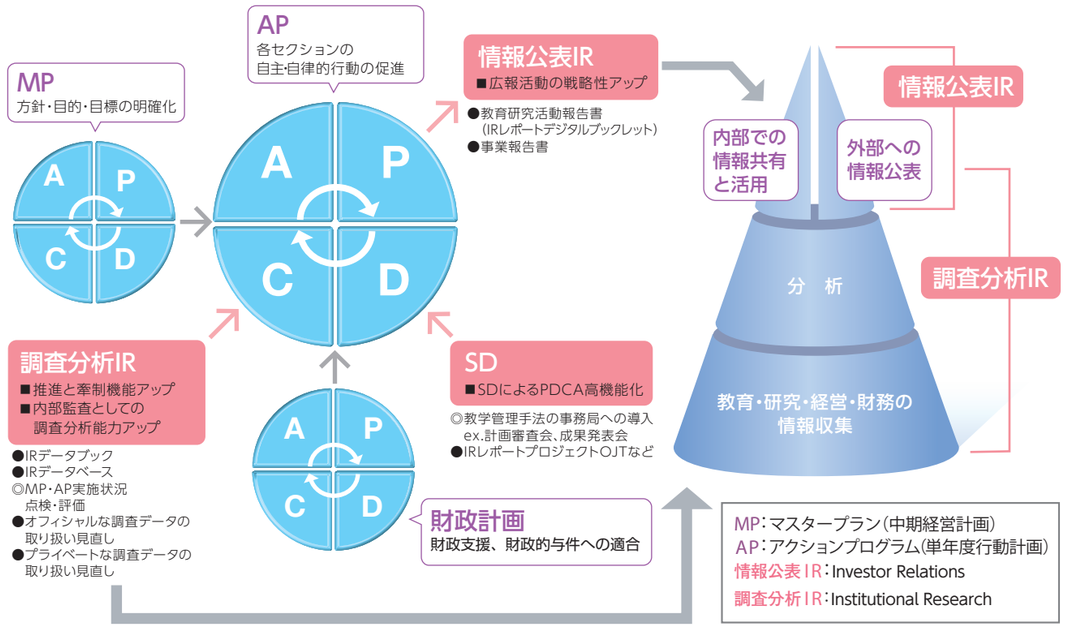
PDCAサイクルを土台にして、取組成果を拡大し、その検証と情報公表を積極化する仕組みを導入しています。

本学のPDCAサイクルの考え方に基づいた経営管理システムは、これまで度々大学マネジメント研究誌に取り上げられるなど、高い評価を受けてきました。その経営管理システムにIR機能を組み合わせ、高機能化させる取組を実施し、改善・強化を図っています。この取組は、私学事業団「未来経営戦略推進経費（経営基盤強化に貢献する先進的な取組）」に採択され、全国の好事例として発表されるなど、本学の経営管理システムは一段と注目を集めています。

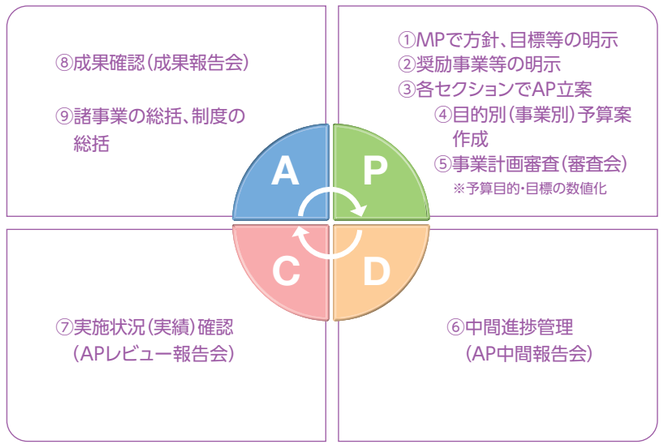
■本学の経営管理システムの考え方

● PDCAの実質化の基本的考え方

■ IR活動の基本的考え方



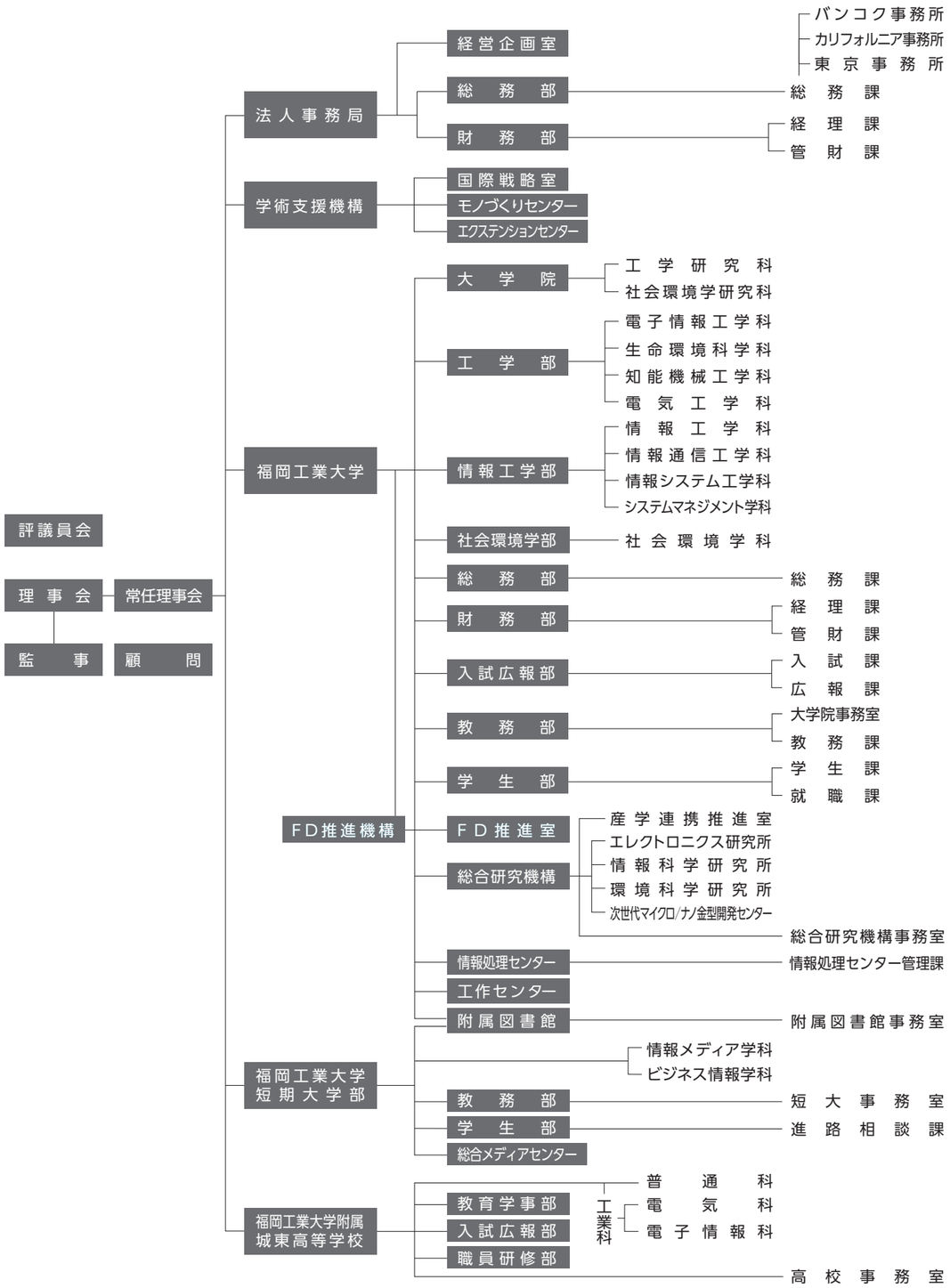
● AP（単年度行動計画）及び配分予算管理サイクルの具体例



▲審査会の模様

▲成果報告会の模様

組織図 平成25年4月1日現在



役員等の状況

■役員一覧 (平成25年3月末現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鵜木　洋二	
理事(常務理事)	大谷　忠彦	
理事	下村　輝夫	大学、短期大学部学長
理事	園田　義男	附属城東高校長
理事(非常勤)	江頭　公成	
理事(非常勤)	川原　正孝	
理事(非常勤)	正司園　博行	
理事(非常勤)	園田　勇	
理事(非常勤)	髙田　洋征	
理事(非常勤)	森　紀久雄	
理事(非常勤)	米田　達郎	
監事(非常勤)	吉戒　孝	
監事(非常勤)	中尾　忠徳	

職名	氏名	兼職名
最高顧問	麻生　渡	

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9～13	11	1号2名、2号1名、3号8名
監事	2～3	2	
評議員	19～27	23	1号4名、2号3名、3号3名、4号13名

※1号理事：学長・校長、2号理事：評議員、3号理事：学職経験者
1号評議員：学長・校長・教職員、同2号：卒業生、同3号：父母
同4号：学職経験者

■部科長一覧 (平成25年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	村山　理一
情報工学部長	西田　茂人
社会環境学部長	李　文忠
工学研究科長	倪　宝栄
社会環境学研究科長	坂井　宏光
教務部長	前田　洋
学生部長	安永　誠
図書館長	阿山　光利
情報処理センター長	松尾　敬二
総合研究機構長	下村　輝夫(学長兼務)
入試広報部長	下村　輝夫(学長兼務)

職名	氏名
電子情報工学科長	善明　和子
生命環境科学科長	三田　肇
知能機械工学科長	スーチュー クラウデュ ヴァレンティン
電気工学科長	工藤　孝一
情報工学科長	徐　海燕
情報通信工学科長	バロリ レオナルド
情報システム工学科長	吉田　耕一
システムマネジメント学科長	赤木　文男
社会環境学科長	池田　賢治
エレクトロニクス研究所長	田中　秀司
情報科学研究所長	山澤　一誠
環境科学研究所長	森山　聡之
産学連携推進室長	下村　輝夫(学長兼務)

教職員数

■教員数 (平成25年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
学部・学科名	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
男女別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教授	37	1	38	29	2	31	18	0	18	4	0	4	2	0	2
准教授	13	2	15	16	1	17	6	2	8	4	0	4	2	2	4
講師	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	3	3	6	3	1	4	3	1	4	1	0	1	0	0	0
合計	53	6	59	52	4	56	27	3	30	9	0	9	4	2	6

■職員数 (平成25年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
男女別	男	女	計	男	女	計
専任職員	56	14	70	3	1	4
嘱託職員	10	26	36	1	3	4
派遣職員	0	26	26	0	1	1
合計	66	66	132	4	5	9

設置学部・学科/専攻概要

資格について　◎／指定学科目の単位を取得し、在学中または卒業と同時に取得できる資格
●／指定学科目の単位を取得し、実務経験を経て取得できる資格
○／指定学科目の単位を取得し、一部の学科試験が免除される資格
■／学科で取得を支援している資格
□／カリキュラムの特色を生かした比較的取得しやすい資格

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的	教員構成（人）※	取得可能学位	取得可能な教員免許	取得支援を実施している資格※
大学	工学部	電子情報工学科	電子情報工学先端コース 電子情報工学基盤コース	現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。	教　授　9 准教授　2 助　教　1	学士（工学）	高等学校教諭一種免許状（工業）	■ 基本情報技術者 ■ ITパスポート ■ MOS ■第一級陸上無線技術士 ■第一級陸上特殊無線技士
		生命環境科学科	環境エネルギー・物質化学系 生命化学・食品化学系	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。	教　授　8 准教授　5		高等学校教諭一種免許状（工業、理科） 中学校教諭一種免許状（理科）	◎食品衛生管理者・食品衛生監視員 ◎毒物劇物取扱責任者 ■公害防止管理者（水質） ■バイオ技術認定 ■危険物取扱者（甲・乙） ■環境測定分析士 ■環境計量士
		知能機械工学科	知能機械設計コース 知能機械創成コース （JABEE認定）	情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。	教　授　10 准教授　3 助　教　3		高等学校教諭一種免許状（工業）	◎修習技術者（→技術士補） ■CAD利用技術者 ■機械設計技術者 ■機械保全技能士検定
		電気工学科	電気総合エンジニアコース 電気開発エンジニアコース	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。	教　授　7 准教授　5 助　教　1		高等学校教諭一種免許状（工業）	●電気主任技術者（第一種） ■電気主任技術者（第三種） ■電気工事士
	情報工学部	情報工学科		コンピュータのソフトウエア・ハードウエアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システムLSIなどの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。	教　授　12 准教授　3 助　教　3 講　師　1	学士（情報工学）	高等学校教諭一種免許状（情報、数学） 中学校教諭一種免許状（数学）	■ITパスポート ■基本情報技術者 ■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験
		情報通信工学科	情報ネットワーク工学コース 情報通信先端工学コース （JABEE認定）	今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。	教　授　9 准教授　4		高等学校教諭一種免許状（情報、数学） 中学校教諭一種免許状（数学）	◎修習技術者（→技術士補）　○/■第一級陸上無線技術士　■ITパスポート　■LPIC ◎第一級陸上特殊無線技士　○/■電気通信主任技術者　■基本情報技術者　■CCNA ◎第三級海上特殊無線技士　○/■工事担任者（ネットワーク接続技術者）　■MOS　■Webクリエイター能力認定試験
		情報システム工学科	情報システム設計コース 情報システム技術コース （JABEE認定）	情報処理基盤技術、情報ネットワーク、システムLSI、知能情報処理、ロボット工学、制御工学などの専門知識に加え、技術者倫理、高いコミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力、計画実行力、生涯学習能力を身につけさせるための教育を行い、国際的に活躍できる情報システム技術者の人材の養成を目的とする。	教　授　4 准教授　6 講　師　2		高等学校教諭一種免許状（情報、数学） 中学校教諭一種免許状（数学）	◎修習技術者（→技術士補） ■ITパスポート ■基本情報技術者 ■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験
		システムマネジメント学科		高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。	教　授　4 准教授　4 講　師　1		高等学校教諭一種免許状（情報、数学） 中学校教諭一種免許状（数学）	■ITパスポート ■基本情報技術者 ■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験
	社会環境学部	社会環境学科		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。	教　授　18 准教授　8 助　教　4	学士（社会環境学）	高等学校教諭一種免許状（公民） 中学校教諭一種免許状（社会）	■環境計量士 ■環境社会検定試験（eco検定） ■環境管理士 ■MOS ■ビオトープ管理士 ■３R低炭素社会検定 ■日商簿記検定
大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻 （博士後期課程）		物質生産システム工学専攻は、電子物性工学、機能材料応用工学、エネルギーシステム工学及び設計生産システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教　授　20 准教授　1	博士（工学）		
		知能情報システム工学専攻 （博士後期課程）		知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教　授　17 准教授　1			
		電子情報工学専攻		現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立って、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門的知識を背景に、独創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。	教　授　8 准教授　2 助　教　1	修士（工学）	高等学校教諭専修免許状（工業）	
		生命環境科学専攻		本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的に本専攻では、広い視野に立って精深な学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。	教　授　8 准教授　4		高等学校教諭専修免許状（理科）	
		知能機械工学専攻		機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教　授　10 准教授　1 助　教　1		高等学校教諭専修免許状（工業）	
		電気工学専攻		本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修了課程の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講究するとともに、並行してこの分野の先端的研究テーマについての研究に取り組ませ創造的対応能力を培う。	教　授　7 准教授　4 助　教　1		高等学校教諭専修免許状（工業）	
		情報工学専攻		人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウエア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教　授　10 准教授　2		高等学校教諭専修免許状（数学） 中学校教諭専修免許状（数学）	
		情報通信工学専攻		携帯電話や無線ＬＡＮ、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教　授　7 准教授　4		高等学校教諭専修免許状（数学） 中学校教諭専修免許状（数学）	
		管理工学専攻		人間社会が関わるあらゆるものをシステムとしてとらえて、それらのシステムから得られる情報を利用して、システムの調査、分析、設計、評価かつ必要に応じて制御設計ができるようにする。とくに、生産管理システム、医用生体システム、生体情報システム、ビジネスシステム、視覚情報システム、一般的物理システム、情報メディアに関して、教育研究を行うことを目的とする。	教　授　7 准教授　8		高等学校教諭専修免許状（数学） 中学校教諭専修免許状（数学）	
	社会環境学研究科	社会環境学専攻		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。	教　授　8 准教授　4 助　教　1	修士（社会環境学）		
短大	短期大学部	情報メディア学科		情報メディア学科は、コンピュータの基礎および応用技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として情報技術、情報メディアおよびエレクトロニクスの各分野で即戦力として働ける技術者を養成することを目的とする。	教　授　4 准教授　4 助　教　1	短期大学士		■基本情報技術者試験 ■応用情報技術者試験 ■ITパスポート試験 ■秘書検定 ■日商PC検定 ■建築CAD検定 ■CAD利用技術者試験 ■実用英語技能検定 ■色彩検定 ■医療事務 ■CGエンジニア検定 ■マルチメディア検定 ■日本漢字能力検定 ■日商簿記検定 ■福祉住環境コーディネーター ■CGクリエイタ検定 ■ドットコムマスター ■TOEIC
		ビジネス情報学科		ビジネス情報学科は、現代の情報化社会で必要とされる情報技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として電子ビジネス、福祉・医療あるいは小売業などの各種産業の事務部門や管理・運営部門で活躍できる人材を養成することを目的とする。	教　授　2 准教授　4			

※平成25年4月1日現在

平成24年度学位授与数

■学士・短期大学士授与数

学部等名	授与数
工学部	408
情報工学部	388
社会環境学部	190
短期大学部	151

■博士、修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	57	1
社会環境学研究科	4	0

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械創成コース（知能機械工学科）	10
情報通信先端工学コース（情報通信工学科）	10
情報システム技術コース（情報システム工学科）	11

学生数

■在籍学生数 （各年5月1日現在）

学部	学科	定員	平成24年度学生数				平成25年度学生数	
			現員	定員充足率(倍)	留年者数	退学・除籍者数	現員	定員充足率(倍)
工学部	電子情報工学科	320	386	1.21	28	16	380	1.19
	生命環境科学科	320	426	1.33	30	13	409	1.28
	知能機械工学科	400	520	1.30	49	28	491	1.23
	電気工学科	320	410	1.28	38	25	381	1.19
	合　計	1,360	1742	1.28	145	82	1661	1.22
情報工学部	情報工学科	480	608	1.27	38	16	594	1.24
	情報通信学科	320	413	1.29	38	18	414	1.29
	情報システム工学科	320	429	1.34	49	30	418	1.31
	システムマネジメント学科	240	322	1.34	21	13	318	1.33
	合　計	1,360	1772	1.30	146	77	1744	1.28
社会環境学部	社会環境学科	660	779	1.18	55	34	755	1.14
大学院	工学研究科(修士)	116	138	1.19	10	5	128	1.10
	工学研究科(博士)	12	17	1.42	0	0	19	1.58
	社会環境学研究科(修士)	12	13	1.08	1	1	11	0.92
	合　計	140	168	1.20	11	6	158	1.13
福岡工業大学・大学院合計		3,520	4461	1.27	304	165	4318	1.23
短期大学部	情報メディア学科	210	240	1.14	18	14	262	1.25
	ビジネス情報学科	110	110	1.00	5	11	115	1.05
福岡工業大学短期大学部合計		320	350	1.09	23	25	377	1.18

■留学生数推移 （各年5月1日現在）

設置校等	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	中国	その他	中国	その他	中国	その他	中国	その他	中国	その他
大学	69	1	92	0	102	0	95	1	94	1
短期大学部	7	0	9	0	12	0	11	0	7	1
大学院	31	0	38	2	34	2	35	7	37	18
研究生	5	0	6	0	6	0	1	0	0	0
合　計	112	1	145	2	154	2	142	8	138	20

卒業生累計、同窓会員数

■大学・短大卒業生累計

44,561 名　（平成25年4月1日現在）

■地域別同窓会会員数 （平成25年４月1日現在）

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	11	中国	3,161
関東	793	四国	1,225
東海	284	九州・沖縄	19,942
関西・北陸	754	合　計	26,170

平成25年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	特別推薦			一般推薦			一般A方式			一般C方式			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	80	25	24	24	45	26	11	193	80	27	316	158	28	1	1	1	580	289	91
	生命環境科学科	80	32	26	26	51	29	9	245	85	31	325	172	31	1	0	0	654	312	97
	知能機械工学科	100	44	42	42	58	26	15	315	133	42	409	159	20	6	1	1	832	361	120
	電気工学科	80	47	44	44	34	18	8	230	93	32	345	151	14	0	0	0	656	306	98
	学部合計	340	148	136	136	188	99	43	983	391	132	1,395	640	93	8	2	2	2,722	1,268	406
情報工学部	情報工学科	120	41	40	40	76	44	27	322	146	46	480	206	30	0	0	0	919	436	143
	情報通信工学科	80	35	35	35	23	20	14	115	70	33	271	116	11	0	0	0	444	241	93
	情報システム工学科	80	35	30	30	18	11	7	174	87	51	315	163	11	0	0	0	542	291	99
	システムマネジメント学科	60	26	22	22	36	24	12	66	51	29	204	140	16	1	1	1	333	238	80
	学部合計	340	137	127	127	153	99	60	677	354	159	1,270	625	68	1	1	1	2,238	1,206	415
社会環境学部	社会環境学科	150	91	89	89	86	80	32	129	85	35	320	242	22	4	3	3	630	499	181
合　計		830	376	352	352	427	278	135	1,789	830	326	2,985	1,507	183	13	6	6	5,590	2,973	1,002

※前期入試、後期入試の合計

■大学院修士課程

研究科	専攻	定員	一 般※1			協定校※2			外国人※3			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	8	7	6	1	1	1	0	0	0	9	8	7
	生命環境科学専攻	8	15	14	7	0	0	0	0	0	0	15	14	7
	知能機械工学専攻	8	11	9	6	3	2	2	0	0	0	14	11	8
	電気工学専攻	8	10	9	5	2	2	2	0	0	0	12	11	7
	情報工学専攻	10	11	11	10	0	0	0	0	0	0	11	11	10
	情報通信工学専攻	8	9	8	8	0	0	0	0	0	0	9	8	8
	管理工学専攻	8	10	4	4	4	2	2	0	0	0	14	6	6
	工学研究科　計	58	74	62	46	10	7	7	0	0	0	84	69	53
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	0	0	0	0	0	0	4	4	3	4	4	3
合　計		64	74	62	46	10	7	7	4	4	3	88	73	56

※1 推薦入試、一次・二次入試の合計
※2 キングモンクット工科大学（タイ）、南京理工大学（中国）、青島科技大学（中国）
※3 一次・二次入試の合計

■大学院博士後期課程

専攻	定員	一般			外国人			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
物質生産システム工学専攻	2	2	2	2	0	0	0	2	2	2
知能情報システム工学専攻	2	1	1	1	0	0	0	1	1	1
合　計	4	3	3	3	0	0	0	3	3	3

■短期大学部

学科	定員	特別推薦			一般推薦			自己推薦対話型			一般			C方式			留学生			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
情報メディア学科	105	47	47	47	14	13	9	21	21	21	116	85	43	48	43	16	6	0	0	252	209	136
ビジネス情報学科	55	37	37	36	8	8	2	13	13	13	35	30	12	36	35	4	5	1	1	134	124	68
合　計	160	84	84	83	22	21	11	34	34	34	151	115	55	84	78	20	11	1	1	386	333	204

平成24年度進路状況 平成25年3月卒業者

■大学

(単位:名)

学部	学科	卒業者	進学者	就職希望者	就職者
工学部	電子情報工学科	82	6	69	68
	生命環境科学科	101	9	81	78
	知能機械工学科	120	6	108	108
	電気工学科	105	3	100	100
	学部合計	408	24	358	354
情報工学部	情報工学科	147	11	105	94
	情報通信工学科	80	7	68	65
	情報システム工学科	82	2	68	66
	システムマネジメント学科	79	3	62	60
	学部合計	388	23	303	285
社会環境学部	社会環境学科	190	3	155	148
合　計		986	50	816	787

■大学院

(単位:名)

研究科	専攻	卒業者	進学者	就職希望者	就職者
工学研究科	電子情報工学専攻	10	0	7	6
	生命環境科学専攻	6	1	5	4
	知能機械工学専攻	8	1	7	7
	電気工学専攻	7	0	7	7
	情報工学専攻	14	0	9	9
	情報通信工学専攻	11	1	6	6
	管理工学専攻	1	0	1	1
	工学研究科　計	57	3	42	40
社会環境学研究科	社会環境学専攻	4	0	1	1
合　計		61	3	43	41

■短期大学部

(単位:名)

学科	卒業者	進学者	就職希望者	就職者
情報メディア学科	97	44	35	34
ビジネス情報学科	54	9	39	38
合　計	151	53	74	72

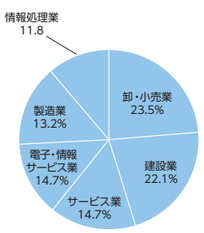
主要就職先 平成25年3月卒業者

■大学・業種別

■大学・地区別

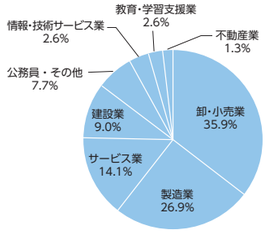
電子情報工学科

TOTOエンジニアリング（株）／日本電技（株）／ダイダン（株）／（株）きんでん／（株）九電工／エヌビ・エス（株）／新日鐵住金（株）八幡製鉄所／タキゲン製造（株）／ヤンマーエネルギーシステム（株）／日本無線（株）／（株）フジマック／ＮＥＣフィールディング（株）／（株）富士通九州システムズ／日本ソフト技研（株）／ダイキンエアテクノ（株）／ホシザキ北九（株）／日本電気航空宇宙システム（株）　など



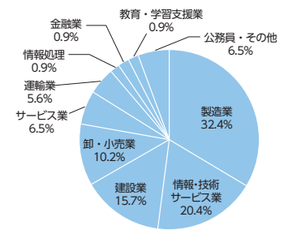
生命環境科学科

山九プラントテクノ（株）／（株）九電工／三和浄水（株）／（株）谷川建設／（株）武蔵野／（株）武蔵野フーズ／（株）九食／タカ食品工業（株）／宮島醤油（株）／（株）九十九島グループ／（株）クローバー食品／南日本ハム（株）／タキゲン製造（株）／（株）九州設備公社／ホシザキ北九（株）／九州三菱電機販売（株）／（株）生活の木／ＪＡ糸島／大阪府立　堺工科高等学校／九州産業高等学校　など



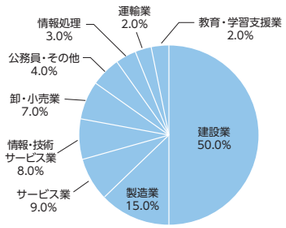
知能機械工学科

高砂熱学工業（株）／不二熱学工業（株）／セキスイハイム九州（株）／（株）九電工／ MHI プラントエンジニアリング（株）／日本タングステン（株）／新日鐵住金（株）大分製鉄所／（株）川本製作所／不二精機（株）／安川エンジニアリング（株）／三菱電機ＦＡ産業機器（株）／電装（中国）投資　有限公司／大分キヤノン（株）／（株）九州設備公社／デンソーテクノ（株）／西日本旅客鉄道（株）／九州旅客鉄道（株）／ケルヒャージャパン（株）／三菱電機住環境システムズ（株）／リコーテクノシステムズ（株）／佐賀県立佐賀工業高等学校　など



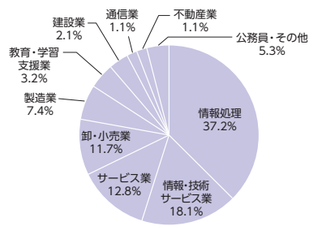
電気工学科

(株) 日立プラントエンジニアリングアンドサービス／三菱電機プラントエンジニアリング（株）／日本電設工業（株）／富士古河Ｅ＆Ｃ（株）／パナソニックＥＳエンジニアリング（株）／（株）きんでん／住友電設（株）／（株）中電工／アユミ電業（株）／（株）九電工／西部電気工業（株）／（株）南電工／新日鐵住金（株）八幡製鉄所／サクサ（株）／富士通コンポーネント（株）／大分キヤノン（株）／（株）九州設備公社／ＮＥＣフィールディング（株）／西日本旅客鉄道（株）／オルガノ九州（株）／学校法人福岡工業大学附属城東高等学校／福岡工業高等学校　など



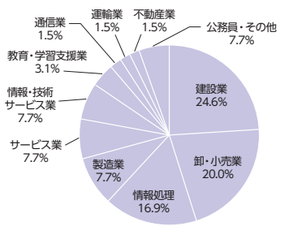
情報工学科

(株) 協和エクシオ／（株）九州日昌／アイエックス・ナレッジ（株）／（株）ISIDインターテクノロジー／（株）エス・ケー・アイ／（株）ケイ・シー・シー／（株）サイバーエージェント／（株）リンクレア／（株）日本コンピュータ開発／大和コンピューターサービス（株）／ナビオコンピュータ（株）／（株）富士通山口情報／（株）アドバンスウェア／デフィデ（株）／フォーサイトシステム（株）／（株）インフォセンス／（株）富士通九州システムズ／電装（中国）投資　有限公司／常磐高等学校／久留米学園高等学校　など



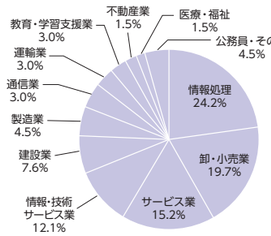
情報通信工学科

日本エレクトロニックシステムズ（株）／西部電気建設（株）／四国通建（株）／西部電気工業（株）／（株）電盛社／西日本システム建設（株）／（株）九南／タニコー（株）／アマノ（株）／タイセイ電機（株）／電装（中国）投資　有限公司／（株）九州設備公社／ヤマトシステム開発（株）／（株）アルファシステムズ／（株）日本ソフトウェアテクノロジー／日本システムウエア（株）／（株）エヌ・ティ・ティ ネオメイト／（株）ロジコム　など



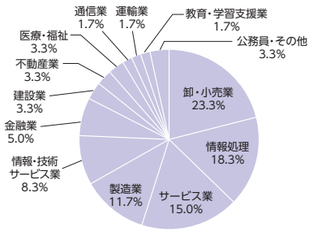
情報システム工学科

(株) エヌ・ティ・ティ・ネオメイト九州／西部電気工業（株）／（株）電盛社／（株）ＴＢグループ／ＮＥＣフィールディング（株）／パイテックシステムエンジニアリング（株）／株（株）アドバンストラフィックシステムズ／新日本コンピュータマネジメント（株）（SCM）／東京コンピュータサービス（株）／（株）ソフィックス／（株）日本コンピュ・タコンサルタント／協立システム開発（株）／ソフトバンクモバイル（株）／九州日立物流サービス（株）／九州旅客鉄道（株）／日米電子（株）　など



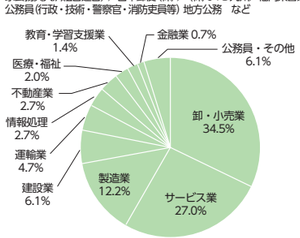
システムマネジメント学科

(株) 九電工／トーホーグループ／大和冷機工業（株）／（株）サムソン／（株）九州設備公社／アイコムシステック（株）／（株）アルファシステムズ／（株）ラデックス／ドコモエンジニアリング九州（株）／日本通運（株）／九州日野自動車（株）／（株）サイゼリヤ／（株）モンテローザ／（株）ナフコ／西日本シティ銀行（株）／（株）南日本銀行／別府溝部学園高等学校／ＪＡさが　など



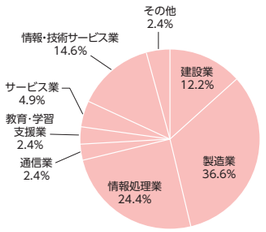
社会環境学科

TOTOエンジニアリング（株）／セキスイハイム九州（株）／（株）九電工／文化シヤッター（株）／タキゲン製造（株）／キャノン（株）／佐川急便（株）／日本通運（株）／九州旅客鉄道（株）／（株）サンドラッグ／（株）コメリ／ヤンマー農機販売（株）九州カンパニー／ネッツトヨタ福岡（株）／（株）コスモス薬品／（株）トライアルカンパニー／（株）ピストロ／（株）フタタ／福岡スバル自動車（株）／（株）ナフコ／ダイレックス（株）／（株）ジョイフル／（株）迫田（SAKODA）／（株）宮崎太陽銀行／社会医療法人財団　池友会　福岡和白病院／千早病院（国家公務員共済組合連合）／日本郵便（株）／（株）ＪＴＢ九州／福岡県警察／地方公務員（行政・技術・警察官・消防吏員等）地方公務　など



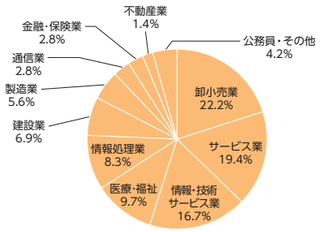
大学院

日本電設工業（株）／電装（中国）投資有限公司／（株）ケーヒン／（株）アサヒコーポレーション／早川ゴム（株）／東洋製罐（株）／（株）ジーエス・ユアサテクノロジー／（株）タカギ／（株）ジェイテック／学校法人豊国学園高等学校／福岡県立戸畑工業高等学校／（株）インクスエンジニアリング／デンソーテクノ（株）／みずほ情報総研（株）／三菱ＵＦＪインフォメーションテクノロジー（株）／（株）エヌ・ティ・ティネオメイト／（株）ミライト／（株）三技協イオス／ナガノ電気（株）／西部電気工業（株）／（株）ＥＭシステムズ　など



情報メディア学科

(株) コウケン工業／（株）愛建ホーム／八光オートメーション（株）／（株）アイエスエフネット／（株）電子工学センター／メディアファイブ（株）／（株）エル・エス・アイ／（株）グローバルワークス／（株）サクセス／三井食品（株）／（株）サンメディカル／（株）サークルＫサンクス／（株）ユーリンクス／（株）文明堂総本店／一般財団法人　休暇村協会　休暇村志賀島／社会福祉法人　松快園／（株）ワイドレジャー／（株）アックスジャパン／大川設計事務所／拓新産業（株）／（株）テクノプロ・エンジニアリング／プライムエンジニアリング（株）／（株）夢テクノロジー／宮崎市役所　など



ビジネス情報学科

(株) 大建／瀬口鋪道（株）／（株）愛建ホーム／（株）千鳥屋本家／（株）サマンサタバサジャパンリミテッド／小竹正（株）／（株）ナガラ／（株）コメリ／（株）ジャパネットコミュニケーションズ／（株）イワタダイナース／（株）タカヤマ／ネッツトヨタ福岡（株）／（株）ユーリンクス／（株）かがし屋／（株）福岡銀行／（有）グリーンエステート／（株）ホテル日航福岡／（株）弓張の丘ホテル／社団法人巨樹の会 小金井リハビリテーション病院／秋山とおる整形外科医院／（有）ケンルック／（株）タカサキ／森都病院／（株）高倉メディカル 高倉眼科／（株）光進ガードシステム／ＪＡ糸島／日向農業協同組合（ＪＡ日向）／宮崎空港ビル（株）／（株）ネスパＤＤ／（株）ラック（RITZ5）／（株）モトシマ／プライムエンジニアリング（株）　など

主要進学先 平成25年3月卒業者

■大学

- 福岡工業大学大学院
- 九州大学大学院
- 山口大学大学院
- 北九州市立大学大学院
- 北陸先端技術大学院大学
- 福岡大学大学院

■大学院

- 福岡工業大学大学院
  博士後期課程

■短期大学部

- 福岡工業大学工学部
- 福岡工業大学情報工学部
- 福岡工業大学社会環境学部
- 久留米大学経済学部
- 九州工業大学情報工学部
- 九州国際大学国際関係学部
- 九州産業大学情報科学部
- 佐賀大学理工学部
- 鹿児島大学工学部
- 大阪電気通信大学総合情報学部
- 福岡国際大学国際コミュニケーション学部
- 福岡大学経済学部

学費・徴収金

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	220,000	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,428,300
	2年次以降	–	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	–	1,147,000
社会環境学部	1年次	220,000	630,000	150,000	–	10,000	19,000	61,300	1,090,300
	2年次以降	–	630,000	150,000	–	10,000	19,000	–	809,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費28,000円、後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円　部分は前・後期分納　※教科書代が別途必要です。

■短期大学部

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	35,750	1,033,750
	2年次以降	–	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	–	828,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	35,750	1,033,750
	2年次以降	–	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	–	828,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費14,000円、後援会費10,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円　部分は前・後期分納　※教科書代が別途必要です。

奨学制度

■特別奨学金

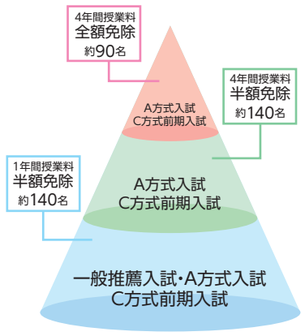
	学業特別奨学金		特技特別奨学金	経済的理由による特別奨学金
対象者	【2～4年次生】学科から推薦された成績優秀者	【1年次生】入試(A方式、C方式前期、一般推薦)上位合格者	スポーツ・音楽の強化クラブから推薦された者	返済義務のある奨学金を受給中の学生で、家計状況、成績や出席状況を審査し、認められた者
採用人数	各学年30名以内	ー	若干名	60名以内
給付期間	1年間	4年間または1年間	1年間(最大4年間)	1年間(最大2年間)
金額	授業料の半額免除	授業料の全額または半額免除	授業料の全額または半額と施設設備費免除	授業料の半額免除
返済	不要	不要	不要	不要
備考		学業成績が一定に満たない場合等は取消しとなる		

■同窓会育英金

対象者	2年次生以上及び院生で勉学意欲があり、経済的に修学が困難な者
採用人数	7名
給付期間	1年間（最大2年間）
金額	授業料の半額免除
返済	不要

■私費外国人留学生に対する減免措置

対象者	私費外国人留学生で一定の成績を修めている者【2～4 年次生】
給付期間	1年間
金額	授業料の半額免除
返済	不要
備考	協定校からの留学生は1年次生から対象となる



【入試による学業奨学制度】

■取得支援をしている奨学金

奨学金の種類	奨学金の内容	H24貸与・給付者数
日本学生支援機構奨学金	第一種奨学金（無利子貸与）、第二種奨学金（有利子貸与）	2,805
地方公共団体奨学金	北九州市教育委員会奨学金、各県、市による奨学金（一部給付あり）など	42
その他奨学金	交通遺児育英会奨学金、北田奨学会記念財団奨学金など	14

課外活動

■平成24年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
硬式野球部	79	アイスホッケー部	13	サッカー愛好会　フランケンFC	28
女子柔道部	6	アーチェリー部	25	軟式野球愛好会	36
ラグビー部	49	吹奏楽部	74	男子柔道愛好会	10
合気道部	26	自動車工学研究部	14	硬式テニス愛好会	30
陸上競技部	8	音楽研究部	121	サイクリング愛好会	8
パワーリフティング部	8	音響部	38	軟式野球愛好会	36
バレーボール部	16	情報技術研究部	60	サバイバルスポーツ愛好会	32
バトミントン部	53	フォークソング部	74	アクションサッカー愛好会	27
バスケットボール部	13	写真部	44	バスケットボール愛好会	48
テコンドー部	41	ロック部	28	フットサル愛好会	59
卓球部	24	モダンアート部	43	ハンドボール愛好会	11
ソフトボール部	28	オールラウンドミュージック部	81	トライアスロン愛好会	4
ソフトテニス部	21	環境サークルオアシス部	62	サブカルチャー愛好会	10
水泳競技部	15	ダンス同好会	27	アカペラ愛好会	17
準硬式野球部	29	ビリヤード同好会	14	料理・スイーツ研究愛好会	33
サッカー部	21	マルチメディアコミュニケーション同好会	25	天体愛好会	9
硬式テニス部	29	国際交流サークル (FIT-ICE)	61	Audio Oriented Rock (A.O.R.)	8
剣道部	13	保健愛好会　みどり	20	ボードゲーム愛好会	9
弓道部	49	相撲愛好会	20	アロマテラピー愛好会	10

加入者総計1,761名

■平成24年度モノづくりセンタープロジェクトメンバー数

プロジェクト名	メンバー数
電気自動車	5
ソーラーカー	16
ロボコン	26
ロボカップ	17
ロボット相撲	14
手作りアクセサリー	11
ビオトープ	16
二足歩行ロボット	26
計	131

平成24年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許種類	科目	取得者数
高校専修	数学	1
	工業	2

免許種類	科目	取得者数
高校一種	数学	16
	理科	3
	工業	8
	情報	18
	公民	10

免許種類	科目	取得者数
中学専修	数学	1

免許種類	科目	取得者数
中学校一種	数学	10
	社会	10

■取得支援資格の合格者数・大学

資格名称	合格者数
技術士(補)	31
公害防止管理者・水質※1	3
中級バイオ技術者認定	11
環境測定分析士３級	1
危険物取扱者免状乙種	7
CAD 利用技術者試験※2	5
機械技術保全技能士２級	34
機械技術保全技能士３級	9
第三種電気主任技術者(科目合格)	5
第一種電気工事士	1
第一級陸上無線技術士	3
第一級陸上無線技術士(科目合格)	2
第一級陸上特殊無線技士	17
ＩＴパスポート	27

※1 第１種、第４種の合計　※2 2級～6級の合計

資格名称	合格者数
基本情報技術者	23
情報セキュリティスペシャリスト	1
応用情報技術者	4
Web クリエイター上級	27
ICND1	4
CCNA	1
LPIC レベル１	1
MOS 試験	168
色彩検定２級	3
ビオトープ管理士	3
社会環境学検定(エコ検定)	12
日商簿記検定２級	5
秘書検定２級	11

■取得支援資格の合格者数・短大

資格名称	合格者数
応用情報技術者	1
基本情報技術者	1
上級情報処理士	3
情報処理士	2
Web 実務士	5
ITパスポート	7
CGクリエイター検定　エキスパート	1
CGエンジニア検定　ベーシック	15
マルチメディア検定　ベーシック	3
日商PC 検定※1	311
MOS 試験	9
建築CAD検定３級	4
日商簿記検定２級	3
日商簿記検定３級	3
秘書検定２級	7
秘書検定３級	7
秘書実務士	1
ビジネス実務士	3
医科第３級医療事務技能検定	11
調剤第３級医療事務技能検定	27
日本語検定※2	13
漢字検定準２級	1
カラーコーディネータ検定３級	1

※1 2級～Basicの各級及び文書作成、データ活用、プレゼン作成の各試験の合計
※2 3級、準3級の合計

国際交流

■国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容					平成24年度交流学生数	
			教育研究活動交流	学年交流	教育・研究者交流	事務職員交流	留学生募集戦略	本学からの派遣	協定校学生の受入
米国	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	◎	◎	◎	◎		51	10
	オレゴン州立大学工学部	2002	◎	◎	◎			0	0
	フットヒルカレッジ	1992	◎	◎	◎			0	0
韓国	慶星大学校	1981	◎	◎	◎	◎		3	4
	亜州大学校	1990	◎	◎	◎	◎		0	2
	啓明大学校工学部	2009	◎	◎	◎			0	1
中国	大連理工大学	1988	◎	◎	◎			0	6
	南京理工大学	1993	◎	◎	◎	◎		0	3
	青島科技大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	0	0
	北華大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	0	3
タイ	キングモンクット工科大学	2008	◎	◎	◎	◎	◎	1	40
	チュラロンコン大学理学部	2009	◎	◎	◎	◎		0	0
豪州	バララット大学	2001	◎	◎	◎			0	0
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	◎	◎	◎			0	0

研究活動

■外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H20	H21	H22	H23	H24
共同研究	金額	9,930	27,515	17,275	14,219	6,375
	件数	11	17	19	14	11
受託研究	金額	10,814	45,306	17,003	16,116	6,535
	件数	5	9	8	8	6
寄付金	金額	7,700	4,450	7,467	3,500	5,133
	件数	8	7	6	5	5
外部助成金等	金額	13,770	0	475	1,566	5,439
	件数	6	4	3	2	5
計	金額	42,214	77,271	42,220	35,401	23,482
	件数	30	37	36	29	27

教育関係補助金の交付状況

■私立大学等経常費補助金の交付実績推移

(単位:千円)

区分	H20	H21※	H22	H23	H24
一般補助	360,027	0	350,247	531,528	457,753
特別補助	351,024	0	382,202	99,322	94,815
合計	711,051	0	732,449	630,850	552,568

※平成21年度は定員超過のため交付辞退

■平成24年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

文科省補助区分	事業名	交付金額
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト	16,002
大学間連携共同教育推進事業	産学協働による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成	1,370
	未来像を描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成	2,530
計		19,902
私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金	理解度向上に向け臨場感を高める授業・実験環境の整備事業	4,535
	情報工学実験Ⅰにおける機材の更新	2,851
計		7,386

附属施設

■図書館蔵書数、利用者数推移

蔵書数　292,174冊　(平成24年3月末現在)

(単位:名)

	H20	H21	H22	H23	H24
学内利用者	31,989	38,518	42,988	40,480	39,899
学外利用者	7,482	6,186	7,131	5,719	2,979
合計	39,471	44,704	50,119	46,199	42,878

■情報処理センター利用者数推移

(単位:名)

H20	H21	H22	H23	H24
30,076	34,325	35,195	33,783	33,202

■平成24年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
資格取得支援講座	51	525
文化教養講座	262	1,931
FIT講座	5	58
合　計	318	2,514

■平成24年度モノづくりセンター利用者数

利用者区分	利用者数
学生プロジェクト	8,559
研究利用	383
一般利用	2,742
合　計	11,684

校地・校舎

■校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(㎡)	建築年
A棟	クリーンルーム、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,040	平成13年
B棟	学生サービスセンター、情報処理センター、レストラン、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
α棟	モノづくりセンター、キャリアサポートセンター、多目的ホール(収容人数200人)、自習室	1,750	平成11年
本部棟	図書館、エクステンションセンター、フレッシュマンスクール、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容人数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数79、収容人数308人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数107、収容人数141人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮（部屋数27、収容人数50人)	1,102	平成4年
和白グラウンド	高校部活動用地他	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、ソフトボール場	38,188	平成24年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 （平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで）

収入の部 （単位:千円）

科　　目	決　　算
学生生徒等納付金収入	6,088,074
手数料収入	146,702
寄付金収入	52,841
補助金収入	1,199,339
資産運用収入	142,598
資産売却収入	451,767
事業収入	166,393
雑収入	297,819
前受金収入	1,675,769
その他の収入	593,481
資金収入調整勘定	△ 1,960,760
前年度繰越支払資金	2,025,508
収入の部合計	**10,879,535**

支出の部

科　　目	決　　算
人件費支出	4,678,444
教育研究経費支出	1,797,287
管理経費支出	712,084
借入金等返済支出	60,000
施設関係支出	678,780
設備関係支出	312,223
資産運用支出	613,035
その他の支出	292,853
資金支出調整勘定	△ 241,825
次年度繰越支払資金	1,976,652
支出の部合計	**10,879,535**

■消費収支計算書 （平成24年4月 1 日から 平成25年3月31日まで）

消費収入の部 （単位:千円）

科　　目	決　　算
学生生徒等納付金	6,088,074
手数料	146,702
寄付金	92,558
補助金	1,199,339
資産運用収入	140,338
資産売却差額	397,285
事業収入	166,393
雑収入	247,198
帰属収入合計	**8,477,891**
基本金組入額合計	△ 1,132,723
消費収入の部合計	**7,345,167**

消費支出の部

科　　目	決　　算
人件費	4,559,665
教育研究経費	2,661,918
管理経費	777,436
資産処分差額	16,662
徴収不能引当金繰入額等	122
消費支出の部合計	**8,015,805**
当年度消費支出超過額	670,637
前年度繰越消費支出超過額	2,375,732
基本金取崩額	0
翌年度繰越消費支出超過額	**3,046,370**

帰属収支差額	**462,086**

■貸借対照表 （平成25年3月31日現在）

資産の部 （単位:千円）

科　　目	24年度末残高
固定資産	**31,721,384**
有形固定資産	21,191,350
土地	3,165,955
建物	14,086,283
構築物	1,329,915
教育研究用機器備品	1,435,024
その他の機器備品	37,906
図書	1,071,252
車両	48,812
建設仮勘定	16,201
その他の固定資産	10,530,033
借地権	19,805
電話加入権	5,156
施設利用権	17,485
預託金	24,809
保証金	450
長期有価証券	2,237,176
退職給与引当特定資産	1,600,000
施設拡充引当特定資産	4,625,150
教育設備引当特定資産	500,000
第3号基本金引当特定資産	1,500,000
流動資産	**2,323,852**
現金預金	1,976,652
その他流動資産	347,200
資産の部合計	**34,045,236**

負債の部 （単位:千円）

科　　目	24年度末残高
固定負債	**1,811,911**
長期借入金	120,000
退職給与引当金	1,649,536
長期未払金	42,374
流動負債	**2,243,720**
短期借入金	60,000
未払金	202,306
前受金	1,675,769
預り金	292,939
仮受金	12,705
負債の部合計	**4,055,631**

基本金の部

科　　目	24年度末残高
第1号基本金	31,031,975
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	504,000
基本金の部合計	**33,035,975**

消費収支差額の部

科　　目	24年度末残高
翌年度繰越消費支出超過額	3,046,370
消費収支差額の部合計	**△ 3,046,370**

負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	**34,045,236**

地下鉄+JR鹿児島本線	福岡空港	地下鉄 5分	博多駅	JR鹿児島本線(快速) 14分 → 福工大前駅
JR鹿児島本線	博多駅	JR鹿児島本線(快速) 14分		→ 福工大前駅
JR鹿児島本線	小倉駅	JR鹿児島本線(快速) 50分		→ 福工大前駅
西鉄バス	天　神	西鉄バス(都市高速) 30分		→ 福工大前バス停

※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成 24 年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編　集／福岡工業大学　IRプロジェクト
発　行／平成25年6月
福岡工業大学
〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号　TEL：092-606-0619　FAX：092-606-8923